自娯小録

五

昭和六年九月上浣起筆

特別
イ4
1919
434

から國にありと
聞くなるおもひとり
思ふ心を
妹に知ればや
宗武

38 9220

176699

自娛小錄

取和六年九月上浣起筆

○あの世界から花本蜀山人鶴巻の判取帳を複製もして三部好事家に北の判取帳を蜀山が狂歌の四人と書画を書かせたるものなり久しくで此事家の間に名文かいたるものなり

林義樹に改竄さんとのことなり

但しこれ複製することとなりたれば原本の紙数八銭の多く、あの分複製本の二倍もあるものなり

その内容は蜀山の自画自賛の混合せし今日世業者の作の新しき面白きものなり複製

て、就ては元禄を是非のこと、三村井清が拵へし
紙百を揃へ、其中に俳を巻に認めし所の
と林長柳の序があつて、蜀山の日記時注子庵
めかす世を蜀山ひとり在来の判取帳を元う
来りて錦繍仕立の書画帖に代用すること
しこれ先生不著の傷表紙漢四無体北奴和
日本の心長氣なる「べし」と称へてある。三村の
跡をうけて、北原本百姓の手を稼ぐ
んが為にて天幸堂鄭屋四盛の手を稼ぐこと
がある。四盛の北の判を自から別に帳
を作りたきなり北家の出を徴したる其の判元
帳は蜀山氏の手を入つたが零落する

衆議院議員時代の岡村貢翁

上越線開通までの隠れた功勞者故岡村翁

明治十五年時代から東奔西走二代に亘る苦心漸く實を結ぶ

上越線全通は後僅五十餘日に迫り沿線の地方民は同線開通の日を鶴首して待つて居る、この上越の基本的計畫には幾多の民間功勞者があるが特に全財産と全生涯を打込んだ岡村貢氏の事蹟を忘れる事は出來ない

▽……△

岡村氏は天保七年四月十日新潟縣南魚沼郡大沼村（今の石打村）の素封家に生れ幼名を大次郎、長じて貢と稱し雲仙と號し資性恬淡武士的性格であつたと云ふ、生家は代々庄屋を勤め氏は二十八歳の時附近三十一ヶ村最寄組元庄屋を勤め苗字帶刀を許されて明治元年に及び同五年柏崎縣第四大區長、同九年七月新潟縣第十三大區長、同十二年四月南魚沼郡長を拜命し十五年十月辭職した

▽……△

氏が三國、清水両峠を貫通して越後と東京を結ぶ鐵道計畫を思ひ立つたのは郡長時代で、辭職と共に全生命をうち込んで其の第一歩をふみ出し十餘年間苦闘の末、二十七年代議士に當選、直ぐに解散となつて九月再選し廣く同志を求めて資本金八百萬圓の上越鐵道會社を組織し二十九年政府から假免狀を得たが日清戰役後のため達成せず三十四年遂に解散しその後安田善次郎翁等と再び計畫に奔走したが政府が許さず、大正八年直營で着工せるため遂に斷念せるもので明治十五年から大正年間に至る間同志の糾合に或は實地測量に全財産と全生涯をうちこみ大正十一年一月七日八十七歳で死去した、長男政孝氏は父の計畫を引つぐと共に財産整理に終始し昭和元年五十七歳で歿し同家二代と全財産を完全に上越線計畫にさゝげたものである

▽……△

岡村家が上越線計畫のため二代に亘る努力と全財産を捧げた事は鐵道當局も認め南魚沼郡石打村字君澤藥照寺内貢翁の墓地は附近に鐵道線路を敷設したが鐵道當局で特に簡易踏切を設け子孫其他の參拜に便ならしめた、尙ほ上越線全通祝賀式には遺族代表者を招待し翁の遺德を表彰する事になつてゐる

（近刊　時事新報記事拔萃）

全通の日に回顧す

上越線沿革

上越線全通の日だ、永き歴史ある過去を顧みやう。明治十四年以降日本鐵道株式會社が上野前橋間に鐵道を敷設するに及び北越地方ではこれと連絡の目的をもつて明治十五年五月本鐵道技師澤村山口權三郎氏外數氏が發企人となり新潟、高崎間の鐵道敷設を企画したが遂に會社の設立を見るに至らなかつた

□

越えて十七八年にかけて南魚沼郡石打村の有志故岡村貞篤は夙に上越線の必要を痛感し技師を聘して實地を踏査せしめたが、ついで廿五年三月上越鐵道會社創立發起人總代東京市日本橋區上槇町鈴木壁三郎外十三名は前橋より沼田、長岡を經て新發田に至る鐵道敷設を企画した、然しこれも亦實現せずに終つた、何れも之は地方民間有志によつて本線施設の必要を唱導せられた最も古い歴史である

□

かくして明治二十五年第三回帝國議會において始めて鐵道施設法案が分科審査し假免許を得て實地踏査の結果可決された同年六月法律第四號をもつて第一期豫定線の中に（北越線豫定線中新潟、直江津又は群馬縣新潟、橋もしくは長野縣長野より新潟、及び新發田に至る鐵道）が指定された、これが上越線の（北越線豫定線の一部として比較線の形式ではあるが）始めて法律によつて認められたるに至つた起源である、しかるに二十七年六月法律第七號をもつて鐵道施設法中北越線豫定線比較線路は直江津より新潟及び新發田に至る線路を採決決定の旨公表された

□

翌來民間において本線の施設を唱導するものもあつたが未だ國論を喚起するに至らなかつた、その後明治四十二年三月第二十五回帝國議會において衆議院議員八日向武一氏外一名提出の上越鐵道敷設に關する建議案が衆議院を通過するに至つた

□

結果比較線としての上越線は政府の豫定計畫中より除外されたのである、翌年上越線の國有線は全く頓挫したが二十七年岡村貫一氏外七名は初志貫徹堅く上越鐵道會社（資本金七百萬圓）を創立し前橋を起點として沼田を過ぎ上州富士を貫き長岡、直田を經て新潟市の鉄岸沼垂に達する線路及び直田より分岐し新發田にいたる鐵道敷設を計畫し假免許を得て實地踏査の結果國境の山岳重疊として深く嶮しくこれが實行極めて困難なことが判明し三十二年同會社は遂に解散の余儀なきに至つた

□

上越線全通の日だ、永き歴史ある過去を顧みやう。明治十四年以降日本鐵道株式會社が上野前橋間に鐵道を敷設するに及び北越地方ではこれと連絡の目的をもつて明治十五年五月本鐵道技師澤村山口權三郎氏外數氏が發企人となり新潟、高崎間の鐵道敷設を企画したが遂に會社の設立を見るに至らなかつた

□

越えて十七八年にかけて南魚沼郡石打村の有志故岡村貞篤は夙に上越線の必要を痛感し技師を聘して實地を踏査せしめたが、ついで廿五年三月上越鐵道會社創立發起人總代東京市日本橋區上槇町鈴木壁三郎外十三名は前橋より沼田、長岡を經て新發田に至る鐵道敷設を企画した、然しこれも亦實現せずに終つた、何れも之は地方民間有志によつて本線施設の必要を唱導せられた最も古い歴史である

□

かくして明治二十五年第三回帝國議會において始めて鐵道施設法案が分科審査し假免許を得て實地踏査の結果可決された同年六月法律第四號をもつて第一期豫定線の中に（北越線豫定線中新潟、直江津又は群馬縣新潟、橋もしくは長野縣長野より新潟、及び新發田に至る鐵道）が指定された、これが上越線の（北越線豫定線の一部として比較線の形式ではあるが）始めて法律によつて認められたるに至つた起源である、しかるに二十七年六月法律第七號をもつて鐵道施設法中北越線豫定線比較線路は直江津より新潟及び新發田に至る線路を採決決定の旨公表された

□

結果比較線としての上越線は政府の豫定計畫中より除外されたのである、翌年上越線の國有線は全く頓挫したが二十七年岡村貫一氏外七名は初志貫徹堅く上越鐵道會社（資本金七百萬圓）を創立し前橋を起點として沼田を過ぎ上州富士を貫き長岡、直田を經て新潟市の鉄岸沼垂に達する線路及び直田より分岐し新發田にいたる鐵道敷設を計畫し假免許を得て實地踏査の結果國境の山岳重疊として深く嶮しくこれが實行極めて困難なことが判明し三十二年同會社は遂に解散の余儀なきに至つた

□

爾來民間において本線の施設を唱導するものもあつたが未だ國論を喚起するに至らなかつた、その後明治四十二年三月第二十五回帝國議會において衆議院議員八日向武一氏外一名提出の上越鐵道敷設に關する建議案が衆議院を通過するに至つた

○歌舞伎座では時々株主に無料の入場券を配布して居るが、此の北の入場券を買集めて、いくらか割引をして売つてみることが歌舞伎座としては、此頃株主くの者に配る。而の為人がお出がるいので困る。どうか宮さんとお年を偲めたらものと頂戴したいと請求して来た。

○此年サルビスと云ふ語を矢鱈に使つてみる。喫飯すべきを「決死的工夫」、サルビスと云ふて物の奉仕を言ひ換へしもみることだ。新宿の彩色ビヤホール西洋料理は、飲食物を長る女給を置かるの魅惑がある。一定の料金を穴埋めをする。

こもと欲物ひも出てくる。えいノーサンビスである。亜米利加ひも新聞を活かすと或る地位に居つたのを見れば、ライ地位であるが、モーえが実現されるである。

○八年前の大震災の記念日に例の小品を造りをやると国民の多くの人が日々詰んだ。えい地蔵尊の像を彫刻した木印である。多くの守札を印刷する者の多くのまひめをうつて、若き時代があるの地蔵尊八人を救ふ慈悲の仏像だが、コンな日

し個数ハ千年を入つたのも奇縁だと立三婦ひ入れて、小品架中のもの

とした。

○北海道きりん人に殺まんとする本は改題）社会教訓
犯罪国王カポネ」である。身の毛無聊を慰すにたる
読物だが、実に驚くべき悪人が公然亜米利加の
潤沢してゐる。北の悪人は多くの同類の先輩を追
ひ出撃滅して最後の勝利を得たのである。シカゴル
住して城廓の如き家を構へてゐるが、実に名は米国
の又が世界を轟き渡つて、亜米利加大統領の名を
知らぬものなく、カポネの名は誰のも知るもの住
「書」の大統領はフーヴァーで庭の大統領はカポネ
とこゝのんでゐる。どんな悪事を働くかと
禁ぜられてゐる酒を密輸（密造）する、淫売を営み賄
侍をやり殺人強奪をやる、一年の高買は二千万

榛原製

倍四といふから驚いたものである。殺人が街頭に出る時
は武装して行列の中を装甲車に乗つてゐる。如
何に敵を撃ちても絶対安全を計らひ身構へしてゐる、
何万人となく抗争が繰返してゐる、警官も軍隊も
悪く買はれてゐるから、どんな罪を犯しても多
くの場合見逃されてゐる。一旦獄に投ぜられても直ち
に釈放される。官憲までも北の悪漢の手下となつて
ゐるに拘はらず、何ともなさんとしても成らざることがあらう。
彼らの犯罪を国に追ふ北海を止めて、或ることあから紫
新聞社長は美濃屯さんの曲ゆるやうなことをしてゐるとは面
ろくべきことである。北の悪漢の傍に決して真実
らしく作つた小説とは思はんとしても事実で

あるやうに思はれる。果してそうだとすると、平米利加の実
害の腐敗も甚しいものだ、禁酒といふ名いめすも
美名に過ぎない。実は禁酒が生んだ罪悪もうすく溜る
のである。

文明の暗黒面は真に言語の絶するものがある。あらゆる罪悪を為す
ものが却つて大富豪であり、金力で世を動かしたり
社会の輿論も法廷の権威も、金の前に屈服せざるを
得ぬ。かゝる腐敗の罪悪は公然書かれてゐるのと明らかに
であるが、高位貴身を完全してゐるものの真に
恐怖である。荒し北の荒漢が更らに黄金を積み
暴力をもて美辞を大言壮語し、或は天下を制せ
ぬと限らぬ。伊太利のムッソリニーがつて、似たやう

横原製

なものであり、其の力の向け方が義であるから、国家の統平
者となるのだが、身恐の危いことは如何ほど
であるか。終始武装的護衛を要することも如何ほど
であるか。探偵を間諜を使つて居ることも、如何ほど
あるか。洪戦争をすることも、如何ほど
ばかりをまとまつてゐるのか。如何ほど進歩発達
八ばかりして多く金を積まることを何んとも思はぬ者が所
をもつて大きな事がある。義賊といふ名も或いは
うかも知れぬ。物を盗む大賊が終に国を盗むも例は
世界の歴史にいくらもあることを思ふと、如何ほど
如きの方針が善に向くか或はムッソリニーれるもの
も限らぬ

○先師之友書稿藏庵の出遺引文の後異説に因んで
一々按覈のまゝ擬く、如斯数を詳べること止まず、そ
の多き、多く元り出て、初めて検す、多くの余の旧
蔵なれども、割愛後十数年を経、既に白答を忘
却するもの少からず、中まい蒲庵化家らも獲
なるもあり、初め完璧なるものもあり、今左にあ
のの解説を附す、

一聽濤閣集古　とあるは戦国時代武将
の書翰を集めたるなり、伝長秀吉
信玄、西宗、時四、神之、等九通を収む
金襴表紙大巻物にて逢来入る、書翰
うんぬん大文書部類に入るべし

標原製

一音玄公書巻
朱子の不自棄文を録したるなり、惜む
べし上部一巻剛如、男玄融之のを補
ふて巻尾に其事由を記す、元融の
書乃父の書に酷似す、草字一文の発
と称する紙なれども、幸い玄俗の最類を存
する書なり、北巻余の山花と屋
し父子の出合璧うるを寄ち喜び
なるも

一洗屋臨古巻
此人の出主子新出を臨字したるなり
筆体頗る雅きこと朱字にて一巻注

す、巻頭に貴茶花園の印あり、北堂余
往年大阪出張中一京都の骨董屋に海
舟の反故一束を買ふこと七度内のうち
ちう、大阪の清人木藤岳山に示して其
跋を請ふ、岳山乃ち筆を附するこのこと也

一 林谷山人内玄来印譜 敬亡孫たるまの記らう
林氏の内玄来印譜 敬亡孫たるまの記らう
北巻首部に林氏の詩十数首を録す
例の海内豪俊の筆ども義歌あり、
こんなる故に特に架中の異書とも
を憶起す

一 近衛左山公墨跡

榛原蔵

えんも余の蔵巻物、公の書三藝院の筆
跡に酷似す、五色さまくの懐紙に古歌
詞書などを書しなるもの各紙に文祿
年号金泥にて画し、色彩燦爛
目を眩ます、真に貴重の一巻なり

一 上田作兵衛和歌巻

巻首に村瀬栗亭の題字あり「古秀
入墨、墨色艷刻雪」と書す、秋成の義
歌を挨する巻に六十九翁のものといら
る、巻末に大阪の人西義霞石らも跋
をなす、大保北亭一巻あり、今六巻
四冊に後し九架中一巻を深し

一 京山彦九郎日記零本一巻

小野湖山連ニ題シテ曰ク、記トモ紀行文ノ如キ、甲州身延山ヲ訪ヒシ記ハ殊ニ興味アリ、此巻モト四人系宏ノ不易ナルベシ、余ガ手ヲ海シテ後、荒井ノ日記零本ヲ得テ終ニ添ヘ、巻ノ首部ニ細川十洲ノ題字アリ、巻末ニ湖山ノ詩アリ、此等ハ皆忘却シテ今初メテ知ル、上ハ四枚ト書シ居ル彦九郎ノ遺族也

一 京人隆古海鯉図巻

元余ガ舊蔵アリ、隆古ガ自筆

横原製

巻尾ノ家ニ左ノ如キ書アリ

巻尾ハ九十九里浜ノ網ノ図ニシテ家毎ニ自ラ書ヲ作リ文人ト交ハル時ニ海鯉ヲ画シ以テ其地ノ產物ヲ示スカ故也、隆古字生ニ長シ業段霊的余北人ノ画ヲ学ブ、巻ノ表紙ハ巻尾ノ筆也、巻尾ノ四箇所ヲ切ル

一 椿山画巻

元余ノ舊蔵、巻末ニ花アリ、さきくの花ヲ寄セ守シ所ノ如キ巻尾ニ椿山ノ義歌アリ

一 唐無印衛公書卷

こんも余の尊敬する所也大師の書を臨し写

しうるも後約束する能はず名家の為めに

書しうるあとなくなり杉聴雨の題

亜ハ余が需めて心らしめ写る所也

一 渡辺漢水山水横卷

北巻首端に趙陶斎の「超心」二字の

題字あり、巻尾に池大雅、富士谷

成章一昔川洪国等の題詩あ

り、横披十数尺書法漢書に似て宏

拙木楊関人物境に依りて変し奴る体を得

たり、漢水江戸の人南画史名、大雅の詩

渡邊漢水

名は従字は周卿漢水と号す又隨庵又鋤雲軒

といふ昌蔵と称す江戸の人明の文衡山を摹模

して淡墨山水をよくす殊に大幅に妙なり明

和四年八月三日歿年四十八にして弘法寺尾

光村寺に葬る般若醫書談を著す 続諸家人物志等

一 林家遺物

余曾て林家十二世の墓を集めん

とし僅かに五代を得て止む北条

一 [illegible]所蔵の書巻

こんも余が尊崇也大師の書を恭しく

しかうして筆跡の[illegible]

書しかるあとにくるべし 弘法家の為める

亟ハ余が需めて心くしめるあり 杉聴雨の題

一 淡島漆山氏横巻

北巻首端に趙陶斎の「超心」二字の

題字あり 其尾に池大雅、富士谷

成章「皆川淇園等の題詩あ

り、横投十数尺書法漢書に似て岩石

樹木掌間人物境に依て変し妙る体を得

たり、漆山氏江戸の人南本氏名、大雅の詩

横原製

三云く

畫仙子南本湖仙氏の図芸閣時去彩

杉宗鱗白蛟擁霧龍淵潜穿林芝

行展未忘世界忽乎入天都都

愛先生東邦人僕学少女名今幸

清閑北図因展観数日所彩

絶句以帰云

平安 池無名

一 林家遺物

余曾て林家十二世の長を集めん

として僅か五代を得て止む 北条

收むる所は羅山春斎鳳岡快庵鳳谷
の五世二代）式部鳳岡快庵鳳谷は皆
岐の松平太守に献じ侍る金松
平頼寿伯に贈る詩文数篇
伯家の書庫を換して北の三面を
得新書を得たるものなり

一　四家書巻

これも金公喜昌氏、秋山玉山、北村可昌四家
所、人見竹洞、朱子家訓を
の書也、人見竹洞は朱子家訓を
玉山は肥後大守加藤清正公祭
道碑を撰する時の古書なり

欄原製

欄の傍の孫とうすのは）る。

一　僧契沖自筆和歌一巻

僧契沖の愛）君真跡なること疑なし和歌集の時其心を傳
金剛寺寺宝帳を見て浮なることあり、北の一巻を
縦一尺二寸巾の長の子に細書したる
まるで四季さまざまの和歌五十首を
枕の終尾に寂蓮のこころをよめる
長歌あり書は古し美なり、巻末
に琴屋仲春庚寅書是御馬契沖
とあり、言橋本氏出言中の逸）なと
なり

一　山本梅逸書巻

梅逸の画敢て称とするに足らず、この一巻和文うた冬の詞を書する所なるも固文の生徒等の筆かるさまを見るに足るのみ、これも余の需求

一　近代名公書簡

一　近代名匠書簡

一　能書集文巻

北三巻巻末天正前後の書術家の書簡類を集め始大巻物なれども筆者の詳かならざること多し、学ぶ者不審なし、古筆家は岡八人として果

模原製

さいりーせ三巻の内末終の一巻は京都太丈下村家より割合を得て買書を極めんことを期すと云ふ

一　松花堂　敗智氏院宮院

出自直瀬養安院の裔なり但徒が君瑞の名を襲ぐ文也　養安院は本姓城智氏にて養中庵と仕へて医を司る曲直瀬の姓を以て世々名は正珪字は長瑞雲夢と称し又別号神へ必と云ふ延享三年所寂三月廿五の歌年六十一麻布一天真寺に葬る　此書

我々は根株の苔を押し坂味あり深し。苔
赤犬蓼木苔の長蔵あり、すべて吾が言
はんと欲する所を立て、大正六年蓼す
る所こゝに亦根株苔中の点睛なり也

一巻蓮翁紀行一巻

此巻昔郡を記行とあしでれ机あと
あり朱印を捺す、紀行文をけみる旅
中の吟詠を録し、仲秋既月旅宿
八長文也、各月や池をめぐりても板も
すゝらし春雨が家の庭その白菊
の花咲や石倉の石の間、多田の神社
を賞をうえて、あるあざ

榛原製

人や甲のたの畑さきりくるし玉祭の
涼し現祭りそのかも焼場の煙うる
麻の匂ひいとゝ吟底穿うるし枝の
巻 栗柄峠に泊りも、猪も共に次
き野分に三日後に北枝と和歌句
かるるの名什は多く和歌あくが
書が行き硬くして真厩の家」うん
新しき重箱こんの金の田花のあ
るし、斯道の人の盛衰を待へんこ
とを祈る

根巻二十数を長歌以上の記を他ゝ寄
渡せく信人に寄ち、

九月四日記

育徳蔵庫の所帳に移りたること多くハ
古文書也、但此文人、よりて二點特記を要するも
のあり左の如し

一 新井白石の詩書 堅帳
行書四行の島江河長篇を書したる
ものなれ上乗のもの家蔵白石の書帳
一也なれ大いなる酒を酌するを思ふ北
帳海舟の寄贈なり 帳に印記
あり題匣も亦然とす

一 加茂真淵 市士の詩 堅帳
北帳の書真淵 市士の書の温藉
に似す頗る新撰なれ峰も市士

複原製

と雖ども新の観あり、予初めて枚を後
徐かに考へ、真淵帳に可らずと為
す蓋し宮殿の珠に天朗帖を擬し
て心を訪ねることと匣面の題署
ありて、蓋し義に雪舟家秘花
永保とあり、安西雪舟の寄花
なるを似せ、余真淵の出を得
て志ざしなるの真淵の大帳を書
するの機会市士の祖也
自分の寄花で今家復したるの大変を物
が為

一 千羅遺文

自分が幼くして[illegible]ることあり、[illegible]
二十もある大巻で、[illegible]の祖父の反
故の歌道と[illegible]ふも[illegible]のことを
克命に寄せ集めて張り込んだものである
[illegible]の巻物も[illegible]中に[illegible]
序の巻、[illegible]もあるも[illegible]
[illegible]の入れ[illegible]
が宝物[illegible]
の父の校正の歌[illegible]七三四枚あるも真淵
の[illegible]がある。[illegible]
手紙や墨田川の[illegible]山東京
傳[illegible]書物やお[illegible]

樣原製

の[illegible]人から寄せられた[illegible]の[illegible]がある。[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]書を[illegible]人[illegible]の手紙もある。流石に千
[illegible]が書[illegible]
三人の[illegible]
[illegible]確かに[illegible]の巻が二三あつた
[illegible]
[illegible]人と[illegible]
折[illegible]主人は市[illegible]
[illegible]
つたのがこんぴらである。

大隈言道自筆の歌集なり、なほ、うきを
をえらび、ある時言道家後の宮と花を
植へんとて地を掘りしに陶器の人形
を掘りあてしなり、その形像もなほ無傷
なもあらざりしこと言道いこん恐くく
重畳の儀なりんと社を祀りその祀を
つんくの神祀と名づけ歌をも四人を
集めて重畳を偲ぶの歌をよみ、また
を書き集めて徒然集と号したること
もしうきを見る時は天保六年三月也
詠歌四人の内まつちよ、かつなほ
まさを、はるつね、もとあき、なるまま

複原製

さ、つるこ、ちどりの名四人、

一縣岩真淵翁が著作家稿本二巻

真淵翁が門人の稿本なるが著作し給ふ

そおらんとそ女流の稿本と無相の

詠歌とを如何、らんは何人なるを知らず

或へ宮仕へなどをなしたる女流なるやあらん真

淵の死去に数へること凡百切を極めし前

も一百あり、詠歌の書込まるもの

四名あり、並相の村田春門なる、春門

八初め並相と称し給

一杉崎恒雄笑山梨福川詩集

北詩集 福川と恒雄の親交を称るの

好資料也　稲川の死を悼む詩市説
文律六巻を著し以て称揚する詩あ
り　稲川の詩を刻する時慎軒序を作
りたることを言へり　稲川を送めの詩あり、丙子六月稲
川を送めの詩と詩の中提携連句あり
富山藩に登り以て詩あり　己卯壬午再
び稲川を送るの詩あり　丙戌四月稲川
江戸に慎軒を訪い一月後辺に起る
処、訃を受き奔往し以て時の詩あ
り、此等の詩慎軒の詩稿に存するや
否や未だ存せざるもの多し也

横原製

一　伊能忠敬手沢附江海測量図一巻

伊能忠敬の書翰容易に獲がたし　余往
年千駄の古書翰を集めし時僅かに
翰一通を獲たるのみ　之を割愛を得偶
さ多数の中に数枚の程度五十嵐敬止
ら忠敬の測量図と測量記程を
一巻とし仕立てたるものを得たり　此等の
如き忠敬の手沢なるもの、慎軒の所
無きものなり　即ち忠敬の遺翰
巻首に数枚の北書翰の有れども
これ無きものなり　測量に関する文
言あり　之れを深くて此等を初めて特

神妙

一 西行歌切一幅

かへりこんの歌外一首手鑑外一とう

おもしろき前田香雪の極めあれども此

般の古墨跡鑑定頗る難し、余疑を

存し(欠道)の研究者に質さんとす

一 山中信天翁画巻小跋 二

此巻信天翁文人作品誠(尚古)

研湖と称す稲井の人にて春嶽侯

の小姓なりしが印刻妙味を得て

の諸に倣り画しなるべし、信天翁

画又多し巻中画に凡数あり

此巻の画殊に雲水を描れし

りと見て各画既数多し一画毎に珠

義の印を捺す信天の印譜なる

べき筆なり研湖印の妙味あ

が故に特に採して示し給りとて、

なりもと一巻なりしを飾りて長尺

なる巻物に不便を感ずるあり

二巻に分装しなるは余が業也

一 三好義徒短冊一幅

三好義継

(小字態九、とせる)

十河一存の子、三好長慶の養子、左京大夫に

任ぜられ相伴衆に列し将軍義輝の妹女に配す、天正元年十一月信長兵を帥ゐ義継を若江城に攻むる時老臣多羅尾右近等信長に内通す、義継長子ち難きを察し前門の樓上に登り自ら腸を割き腸を曝み投卻して死す

得なかりしかんの余の蔵品のめくすす

一 文晁石譜十六鉞法

文晁雲根を考へ手ずからしるすもの也卷尾に書写者の大印を捺す

各鉞法は文晁例の氣根の業なる

模原製

鉞名を考へ、これハ西時桂香なる

光年蔵なるこの也

一 黄葉夕照書巻

元禄庚午仲冬建前大守の嘱を

信り法譜を編りなる、

一 光悦遺蹟

芙湘華山橋山小井弘庵の交故と

張こゝ多なるこの也、北内華山のスケッチ

八無茂鉞なるこの久須美雪香なる

世なる世鉞なるこの也雪香の父ハ

華山へ入るを、華山が書き置てなる

山水の手本の一と云ふ、巻中孫と

一 徹潛心溝の巻

徹潛の心溝を敷くべき長文なる巻

寛文七年六月廿六日主圓（花押）

の後敬あり、藩庭此巻を何人か

得たりしかこれハ余の蔵巻のなりき

一 文晁石講十六敬法

文晁雲根を考へ手ちらしきもの

也巻尾に書画巻の大印を捺す

各敬法は文晁例の氣根の筆なり

榛原制

敬名を考へ、えへハ西時桂香なり

先年獲たるこの也

一 黄葉書の書巻

元禄庚午仲冬上前大守の嘱を

信り法語を綴りたるなり、

一 先哲遺蹟

美濃山華山椿山弘庵の交故を

張こゝ多なるこの也、北内華山の スケッチ

八無茂敬なんとも久須美雪巷なる

巻ひ無茂なるこの也雪巷の父ハ

華山へ人なり、華山が書き與へたる

山水の二十本の一と云ふ、巻中孫と

まゝ先ハ篠崎小竹が古梅園山の遺稿
ニ序し給ふ所(下ニ)載せ森春濤の序
都て五世諸集の序の所(下ニ)出ル
又故中の逸品とす

一人(見世)書巻

朝鮮信使と往復の文書并ニ唱和の
詩を収ル朝鮮ハ西使ハ東京儒学士
文副使路湖李彦(後ニ)洪世泰(弟)
(流浪)七絶巻中ニ載ル

一林東舟遺墨

東舟ハ林家の開祖道春羅山の弟
也若ハ永書幾撰と称す、此巻

榛原製

多く羅山の詩ハ次韻の稿を収
む和韻も数首あり書ハ羅山ニ
よく似タリ巻末ニ春斎の跋あり
東舟ハ乃ち春斎の叔父ニ当る斎
中の和韻ハ易学後序ハ共ニ得
ちなとも其字も収めあり、此人の
書ハ極めて稀也

一仁斎父子書巻

仁斎の遺墨ハ書簡也年歯の衰老あ
り左筆の所ハ世路を激ぶの詩也
芳踊のハ西馬行一篇也無款ニ
も書類の極めあり、又ハ伊藤長

衛漢文の琴文一二篇を収む
なるべし引つゞき朝来古墳を探し一日つゞけるに
こゝなる僅うる器を忘る亦年二益人で罷む、九月
吾記

一千字文　三巻

内二巻中字城行書　一巻草書　一巻
他の一巻は板崎橘堂の懐素を臨
しかるに三巻中の逸品也
尾に「天保辛卯九月廿七日初夜臨
復□□しとあり、橘堂の懐素の字
を[illegible]学ぶ力ありるまか、三巻共

余の畫の稿
一巻芙蓉書屋　紙後のむ人に與へるあ
長の河五通　話　紙後のむ人に與へるあ
るも内容甚に興味あり、之を通ずれば蒙
昧を啓くなり　物のりする詠歌を録す
芙蓉の字をうつすをこゝに

華陰王

うしこくも見るをうれしき
ゝもあはるるものかりてまれの
年のさゝびを

仙華公子見さんにことを報する條
二云く、仙華は餞鞭まで高義

酒宴遠雲まとうるも可憐出来
あるとき酒を物いう、仙蓋なり十
七年まえ古の詠歌あり
ふるさとの秋をおもへい
なくうつりこしひの影を
見るを強をちき
他の一間きく太一郎が紙後くてつこと
を知し、みるに中条生屋ときの
地名七見内
他の一間)まるに無名記出版のうつを
載せるちうり真時語るの名も
えくしてあり

きを)みるに日を定めて仕方酒のうるを
載じ又仙蓋の侍を話をしいん
にちうるる詠しうるを其話を外と
撰筆嶽、謝馬井某宮峯の二
侍を紹ず、北方蘭の中村濱作春
家く宴をとるうるうる
余常て芙蓉の長崎二巻を義す
無こ仕味深きうるうるが今は活無し
此二面卿が湯を時笑中の謝を補
あこ是さ、一連面の数畧い言森碎蓋
せ

一維新元勲書簡四巻

其目左の如し

第一巻

三條實美　二通

大久保利通　一通　十月十四

征韓事件に関する重要の

文書

第二巻

木戸孝允　大久保宛　四月九

西郷隆盛　大久保宛　二月二日

大久保利通宛

横井平四郎　勝海舟宛　八月二日

第三巻

木戸孝允　八月廿一日

大久保利通　別啓

西郷隆盛　八月朔日

第四巻

伊藤博文　黒田清隆宛　一月二十日

此数巻の内にも書簡中西郷大久保宛の

書状多く黄表の故命を然るのみ

と痛論して長う、黄芩の大文字の書簡は徒輩論如来まで就て頗る重要の事に渉つて長き、尚他の考証を心るこ
といちん

余の案中元亀の書簡七い巻あり北の四巻を得て益々光輝を放ち殊に西郷の書簡は悉く得かたく北四巻を二通収めあるは実に小倉(一通)の発見を欠き、日小牧昌業の極め
(一通)

一 楽翁公遺墨

楽翁公歌内市今の自筆原書まで施

治の大要をえるべきこと多く英集しかるに幽中の九拙を営て手放しに
さを悔ひるが今回主を復したるは幸也

九月六日記

一 五山堂投歌

北一巻山陽の揮毫に係る歌の父翁春水所心うて各句に注あり山陽の若書を見る
べきことあうて真跡を安んず但北何故
後孫を缺くか、父翁の詩を収まるに何か
事由を叙すべきもあるのに、唯北山陽遺
士の歌あるは遺憾とす、巻尾
に頼山陽の後詩あり甚面白歌深也

一 紀念宮經一巻

昔し死者の冥福を祈るため遺墨の紙背に經を写して書に納めるは俗習なり

こゝ其の一標なるべし。也い行人とかいたさんど俗名のちらし書美ごとも用ゐる心美に由ある書家族の筆跡なるや物なるべし七と尺二三寸のもの二枚あり

を剥いて四枚とし一巻に仕立てしなり八余

から筆に

一 後古今集部

此一巻鹿定家東常縁の手写とする

巻尾に 法正 の奥書あり、常縁

八百永源の人其侍野史なる往年えん

を得たる時今矢作に国る野史と共

侍あることと今矢の示教を據る所なり

未だ史に就て考へざることなり

一 後文表院御名法名 一巻

一 釋如泰山和尚書本一巻

前年紙後に時者の御新伺に接て宮城の

宮中に秘書一束を得たることがある。其時

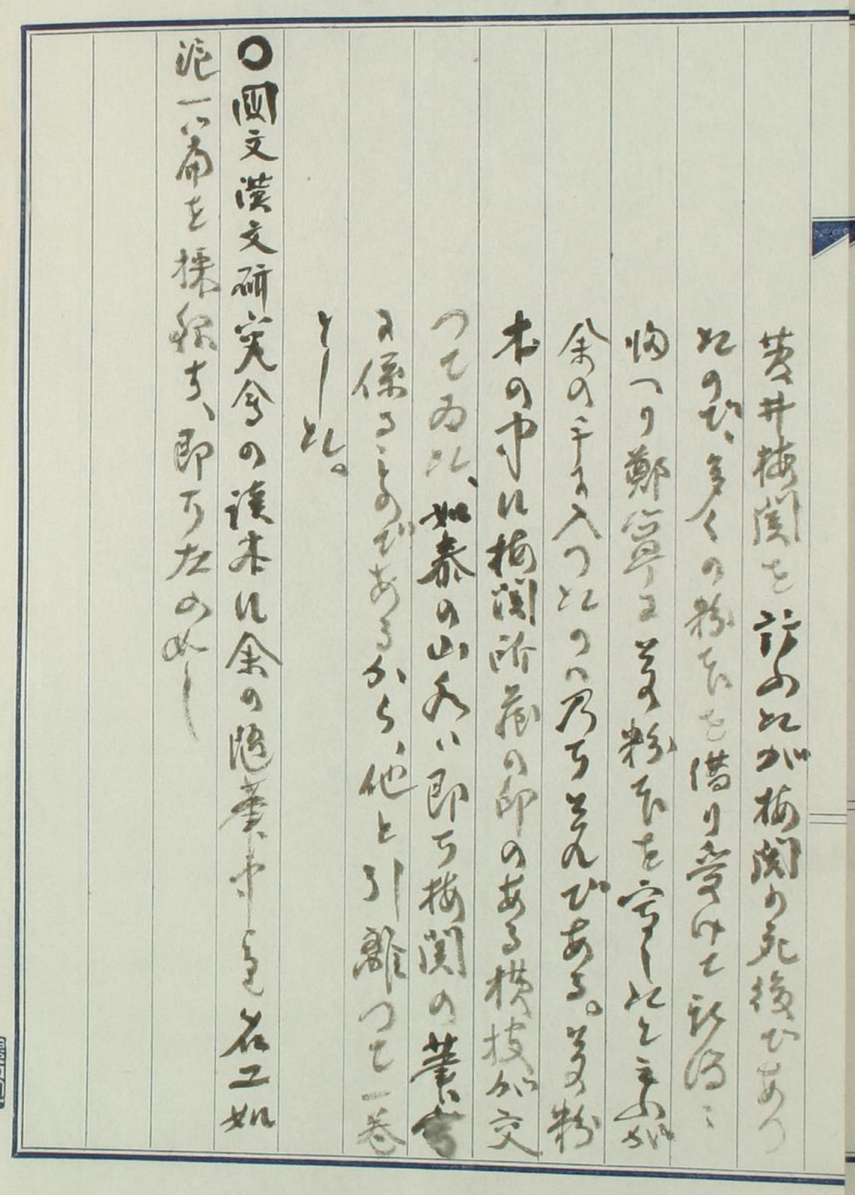
又聴に話れ、文泉源の画を問へんと仙蓋と

文政元年歿、年六十四。

大崎　東京市の南に接續する町。

見えません。どれもこれも同じくらゐの大きさの農家が、平和な谿の懷に黄金のやうな柿の實につゝまれて、怠惰な日向ぼつこをしてゐるやうに思はれました。

の作品が殘つて居る。同館の古い二階の床脇に、透し彫の、かなり大きな方形の製作物が嵌められてゐる。これが不昧公の遺物である事は人も知つて居る所だが、有名な如泥の細工である事は多くの人は知らぬ。どういふ譯で此の物が紅葉館にあるのか、其の由來は分らないが、もと不昧公の大崎の下屋敷にあつたのだといふ。此の細工が如何に巧妙であるかは、委しく說くまでもなく、心ある人は既に氣が付いてをるはずだ。此の作品は、卒然として見ると、透し彫となつてゐる所と、平面を浮き彫にした所と錯綜してゐるが、其の浮き彫となつてゐる部分、そこだけは透し彫でないと思はれる所が、日光に照すとやはり透し彫であるのに驚かされる。



市島春城
名は謙吉。評論家。

松平不昧公
名は治郷。

二九　名匠如泥

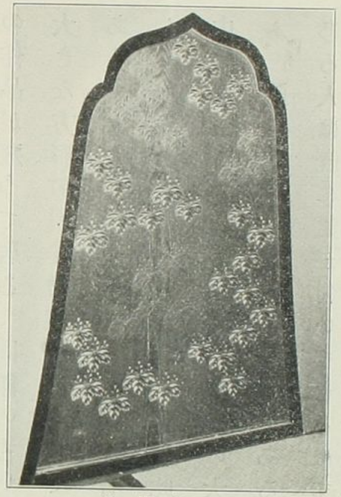
市島春城

松平不昧公は近世の大茶人と稱せられてゐるが、公の薫陶に依つて起つた工藝家が少くない。中にも如泥といふ木工の達人があつた。其の名の由來は後に說くが、此の人の技は眞に非凡で到底他人の企て及ばない細工をやつた。今、芝公園の紅葉館に此の人の作品が殘つて居る。同館の古い二階の床脇に、透し彫の、かなり大きな方形の製作物が嵌められてゐる。これが不昧公の遺物である事は人も知つて居る所だが、有名な如泥の細工である事は多くの人は知らぬ。どういふ譯で此の物が紅葉館にあるのか、其の由來は分らないが、もと不昧公の大崎の下屋敷にあつたのだといふ。此の細工が如何に巧妙であるかは、委しく說くまでもなく、心ある人は既に氣が付いてをるはずだ。此の作品は、卒然として見ると、透し彫となつてゐる所と、平面を浮き彫にした所と錯綜してゐるが、其の浮き彫となつてゐる部分、そこだけは透し彫でないと思はれる所が、日光に照すとやはり透し彫であるのに驚かされる。

松江の城主。不昧と號し、茶道を半寸庵幸琢に學び、石州院不昧派を成した。文政元年歿、年六十四。

大崎
東京市の南に接續する町。

桐の紋樣が板の上に突起して巧みに彫刻されてゐるので誰もこれに魅せられるが、よく見ると此の紋樣が全體板の裏にまで通つて透し彫となつてゐて、纖細の絲でも通しかねる透しが日光の通ずるので始めて分る。かなり厚味のある板であるのに、よくも肉眼で見かねる程の透しの刀を揮つたものと驚くの外はない。如泥の細工にはこれに限らず人の解し兼ねる細工が甚だ多いといふ。前田曙山氏に聞くに、不昧公の家には今も此の名工の作つた木の曲物の烟草盆があるといふ。それは薄い板を楕圓形にして合せたものだが、どうしても其の合せ目が分らぬ。木地の合せ目



如泥彫物

前田曙山　名は次郎。小說家。

は、多くは木理を見ると繼目の分るものであるが、これを顯微鏡の下で見ても分らぬと言はれて居る。又紅葉館の透し彫の外に、松平家に殘つて居る、やはり透しに彫つた或製作物のごときは、如何にも其の透しの明きが狹くて到底普通の刄物では彫ることの出來ないくらゐのものである。それがどんな刄物を以て彫られたのであるかが、工藝家の間に疑問とされて居る。

不昧公も此の如泥の藝の非凡なのには深く感服せられ、江戸に出て、千代田城に多くの諸侯と會合し、互にお國自慢などの出る時には、必ず如泥の事を吹聽された。ある時、薩摩侯が其の自慢を聞いて、それ程の名工であるならば一つお賴み致したいものがある、追つて使者を以てお願ひするとのことであつた。翌日になると薩摩邸から使者が來た。其の使者は一個の瓢簞を齎らし來つて、主人よりの依賴であるが、どうか此の瓢簞の中へ一面に紙を貼つて

貰ひたいと申し入れた。不昧公も此の難題には少なからず當惑したが、折ふし如泥が邸に居たので、早速呼出して此の事を物語つた處、如泥は別に難色もなく、それは格別面倒な事でもありませぬ、やりませうとお受けして、直に旅支度をとゝのへ、本國松江に戻つた。暫く經つと又江戸へ上つて來て、お言付け通り出來ましたというて瓢簞を差出した。處が瓢簞のことであるから、其の內面に紙を貼つてあるかないか、それを調べやうもない。不昧公が、お前は紙を貼つてあるといふけれども、內部の事で分らぬが事實紙を貼つたのかと確めると、お疑ひならば此の通りとて、即座に瓢簞を割つて見せた。成程一面に紙が貼られて居るので、一旦は大いに喜んだが、薩摩侯の瓢簞を壞したと思うたから不昧公も大に閉口して、何故左樣の粗忽な事をしたと叱ると、いや是は薩摩侯からお預りの品ではない、自分が同じやうな瓢簞を探し出して、試みに紙

を貼つたものである、薩摩侯よりお誂へのものはちやんと大切にしてあると、別に差出したので、公も漸く安心した。さて如何にしてかやうの事が出來たかと聞くと、先づ國へ戻つて形の似た瓢簞を幾個か探して手に入れた。それに試驗的に紙を貼ることに大分時日を要したが、仕合せな事には、松江には不昧公の起した紙の製造場があつたので、其處へ行つて、毎日々々試驗をした。即ち製造中の紙が未だ半流動體であるのを瓢簞の中へ注ぎ込み、瓢簞を廻して滿遍なく其の流動物を內面に附着させ、これを乾かし、程よき頃を見計らつて、幾つか割つてみると、一面に紙が附着して居て、恰も貼附けた如くなつて居る。かやうにして此のむづかしい仕事が成功を告げたものであることが分つた。

此の一例でも分る通り、如泥は普通人の思ひも付かぬ工夫に富んで居た、併しかやうな天才には有りがちの事だが、非常の大酒家

貰ひたいと申し入れた。不昧公も此の難題には少なからず當惑したが、折ふし如泥が邸に居たので、早速呼出して此の事を物語つた處、如泥は別に難色もなく、それは格別面倒な事でもありませぬ、やりませうとお受けして、直に旅支度をとゝのへ、本國松江に戻つた。暫く經つと又江戸へ上つて來て、お言付け通り出來ましたというて瓢簞を差出した。處が瓢簞のことであるから、其の內面に紙を貼つてあるかないか、それを調べやうもない。不昧公が、お前は紙を貼つてあるといふけれども、內部の事で分らぬが事實紙を貼つたのかと確めると、お疑ひならば此の通りとて、即座に瓢簞を

で、金さへあれば飲む、隨つて醉うて前後を忘れるといふやうな事が屢〻あつた。ある時、醉步蹣跚として市中を歩いて居ると、一人の武士に突當つた。當時のことだから武士は其の無禮を咎めて、斬捨てるといふやうな事になつたのを、不昧公が詫をいうて、これを助けてやつた。其の時、公は同人の大酒を戒めるために、如泥といふ名を與へたが、それが此の人の號となつたのだといふ。

（春城隨筆）

三〇　森の繪

吉村冬彥

○川瀬一馬氏は大著正平版論語攷を完成されたが、若者は東京文理科大学の国文科出身であるが、正平論語の研究はまだ未開拓で、既往の先人の如く忠実な研究をしたことがない。元来正平版論語の現存するものは無跋本・二跋本・四庭本の四種あつて、正平本の原本の何れが初刊であるかは、新たに永く論争の為に考証をしたが、何れも決定するに至つた。然るに今日に於て決定をなしたのは、従来学者の主張の如んでもなく。初刊本が出て来たからの事だ。それは大改刊者版の花本の二跋本は、それを踏襲した附加されて刊行されたものであるが、それが実本である。

樣原製

と未だ二跋があるそれは、あるいは二跋本と云は校式上の異つた所があるので、それが確かに初刊であるとすれば、他の二跋本は陪つたものであることが、それの文字は、単跋本も無跋本も矢張り同様刊行されたことが分明であることが、無跋本の板木は現在無跋の板木を見ると、二跋本の板木は、往年狩谷棭斎の所有であつたものであり、或る書物に見えた其の板木を換へたことは、早くから知られてゐる。実に刊行した痕跡のあるものは、今日まで四庭本も合はせて四種あるとされたのが、今日は初刊本が加はつて五種となつた

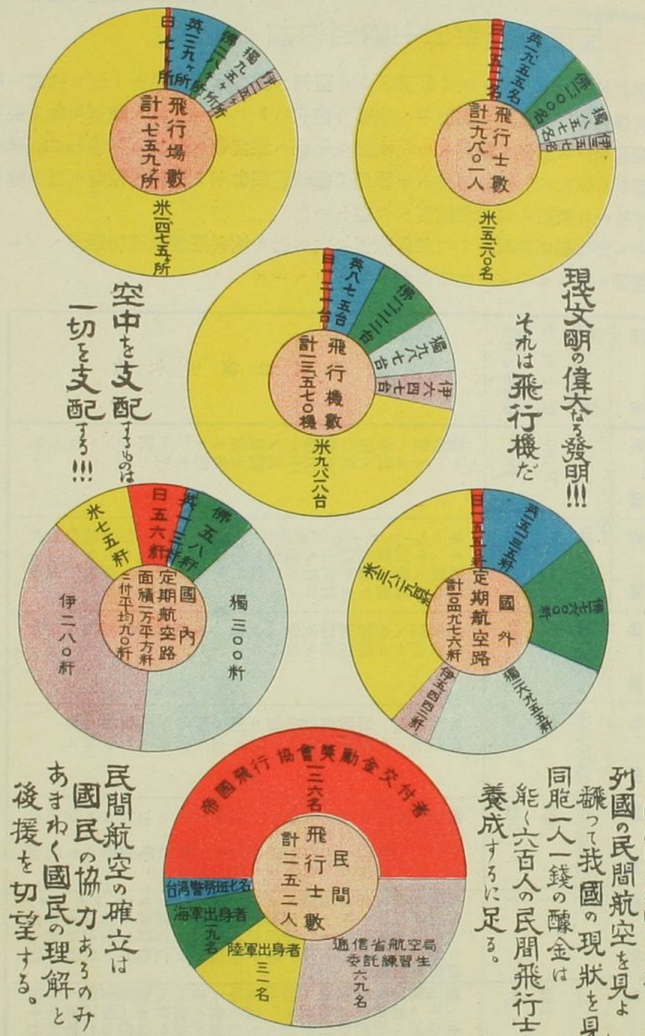
譯してあるが、但しいろ高確かな解を得るのは「古
神德業伝日下逸人貫書」とあることで、此れ
九ことは古神德は天平宝の宮經生の名で現れ
九名の録さんてある文書も存してあると云ふことが
が、果しても宮經生であらうか、自分らしい尚
格が解けたと思ひます。「日下逸人貫」と云ふのも
今尚確説がない。志かし此人が何人であるかは
わからぬ。同じ識語が古文尚書の古鈔本
の存在してゐて、元亨壬戌の歳刊行も企ててゐ
とが法川素堂の若び書かんてゐる、して見ると此
名の人が元亨年間に既に他の任書をおいてこ
とがある。元亨は西暦甲辰十九年ゐる

榛原製

十年も前であるが、西暦紀元四十年先だち古文
尚書が既に出されたといいが、その版本は未だ見さ
れない。或は今はあるかも知れぬが実行しようとしたのかも知れ
ぬ。蒙求初刊本は慶長の頃、その版の中に「博浦
道祐岳士重新命工鏡梓」とある道祐岳士の何
人であるかと、新命重新命工とあることを怪む
があつまて未だ決定する私ちらない。道祐と云ふ人は
足利時代であるけれども年代が合はぬ。重新命工
とと云へば、その前既に刊本があるとらしく思ひ
ますが、そこはどうであるか、川瀬一馬の考
証の頗る周到であるが、まだいろ〳〵の疑問を残
してゐる。

九月七日記

列國民間航空の現狀（昭和六年三月末調）



現代文明の偉大なる發明!!!
それは飛行機だ

空中を支配するものは
一切を支配する!!!

民間航空の確立は
國民の協力あるのみ
あまねく國民の理解と
後援を切望する。

帝國飛行協會

芝區櫻田本郷町七番地

列國の民間航空を見よ
翻って我國の現狀を見よ
同胞一人一錢の醵金は
能く六百人の民間飛行士を
養成するに足る。

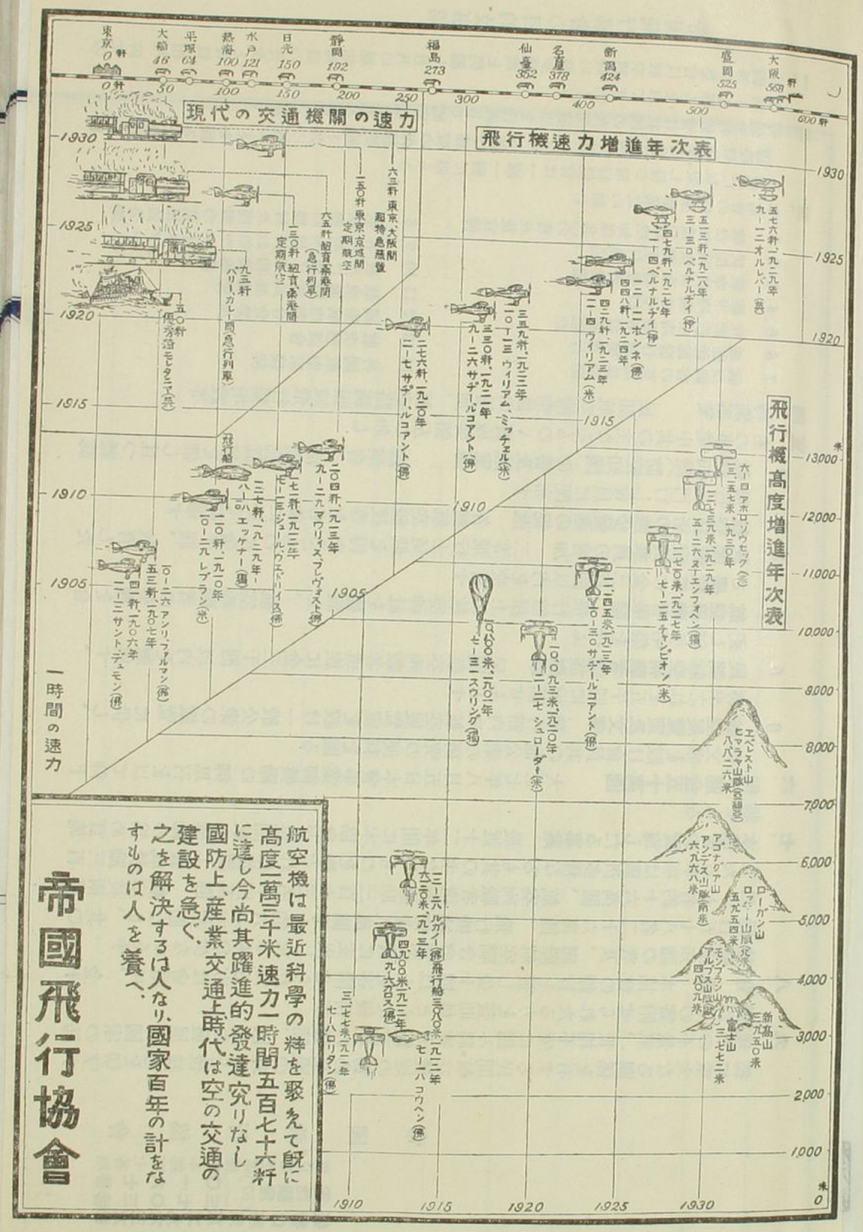
帝國飛行協會
芝區櫻田本郷町七番地

列國民間飛行士養成方針

民間飛行士ノ養成ニ就キテハ列國何レモ國家ノ緊急問題トシテ一定ノ方針ノ下ニ朝野協力シ、優良ナル飛行士ノ養成ニ努力シツツアリ、其ノ養成方針ハ米國ハ自治的ニシテ國家ノ補助ナク、英國ハ少額ノ補助金ヲ交付シ、佛伊ハ英大ナル補助金ヲ交付ス、軍事航空ナキ獨逸ハ職業的飛行士ハ國家ノ補助ヲ以テ養成シ、スポーツ方面ハ自治的養成ノ方針ナリ。

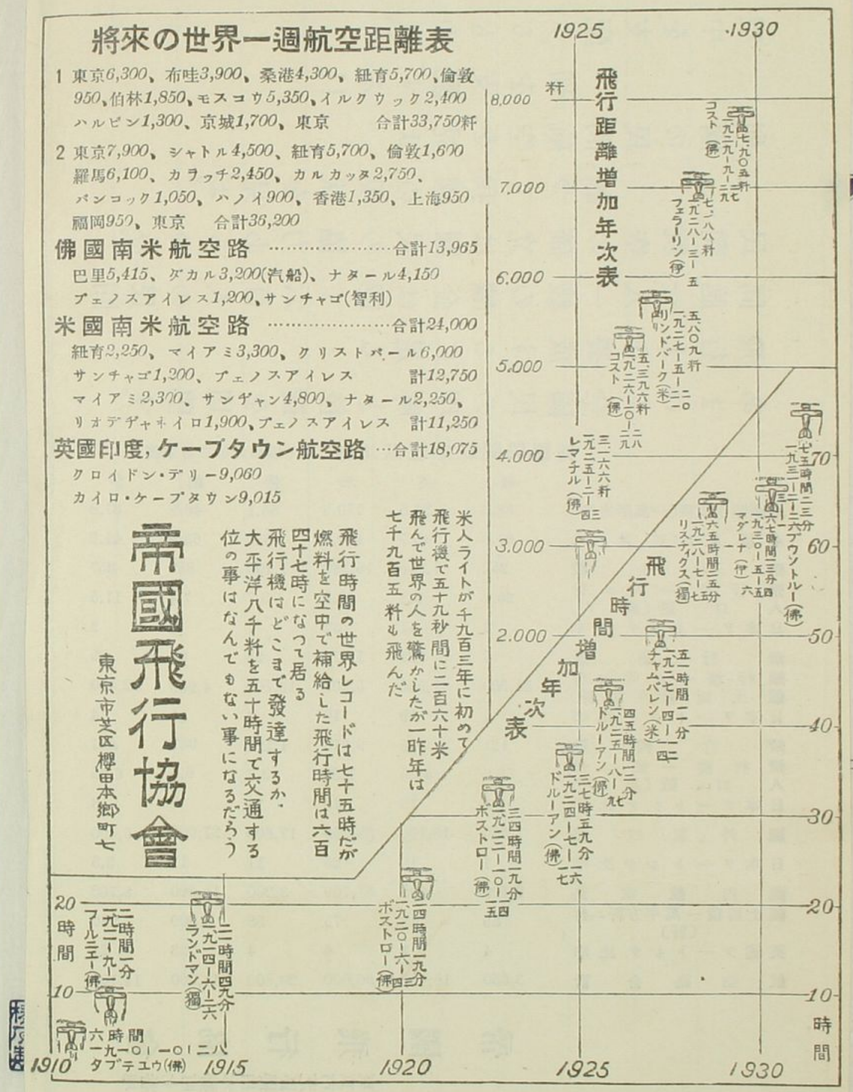
飛行士ノ現在數及增加數ハ自治的養成方針ヲ採ル英米兩國ガ國家補助ノ大ナル佛伊兩國ニ優レルハ大ニ注目玩味スベキモノトス

名國	國米	國英	國佛	國伊	國獨	國露	國日	本日
現在數(國)金助補ノ者間等士行飛	0 15,280 5,085	200,000 1,955 685	580,000 1,100 ? 299	2,650,000 357 ?	1,100,000 857 ? 332	? ? ?	— 252 27	
民間飛行養成方針	ン養成ハ費ハイ民等ハ財五金及百六壓十生高員四ヲ擔ナリ、附セリ一例トシテガアル	毎萬トギニ國シテ民ッ・ジョーシアッ・ジョーギ金百州皿州問題ヲ金飛ヲ行ヲ交士五付ノ養成士、飛ヲ行擔ヲ任繼續ニシ、ニハ、兎政府ガ府ノハ飛行ノ交之付レ、ニ樂部更二新十主	士數養育成費所ノ全ニ都州國庶金ヲ交辨付ノ方針ニテ飛行協會經營ノ飛行	飛佛行國士以ニ上ハ兎民狀問ヲ飛得ヲ壓ル校トニキ國金庶千補四州百金皿ヲ交付ス	ス行藍、ガ壓養生協會負經營ナリ飛行學校ニテ養成以テ養成スル方針ニテ交通飛	四ニ金ハ民校增千昭問四十加六和航百四空百年ノ指導州士金ハ國及飛學校ニ、目國千昭現ガ名和在ル飛ナ七ニ共五養年テ行成未五協會ス遠百會ル二十(ヲ萬ノ方會萬ヲ人ッ・アヒヤトヒム)千千會ヒ員千百萬帝校人附)	一 252 27	成士九ノ選シ兎各下信ヲ省ヲ狀ルヲハ國委學得民海託校ヲ問軍練ニル飛ニ習金者行委生參ニ學旺(百ハ校シ昭和百本ニ共五以協テ其五內會自ノ年ヲヨ費他八名)ヲ狀ヲノ名)交リヲノ飛ヲ付金以飛ヲ行ス千テ行ハ國飛士國ヲ、ヲ兎(費)ヲ、シ昭麦之二和辨之等五ノレ年ヲ飛年方養行十針



航空機は最近科學の粹を聚えて既に高度一萬三千米速力一時間五百七十六粁に達し今尚其躍進的發達究りなし國防上産業交通上時代は空の交通の建設を急ぐ、之を解決するは人なり、國家百年の計をなすものは人を養へ、

帝國飛行協會



交通機關の過去と將來の概觀

國際關係はどうなる。

其の國の交通機關の速力と其の整備とが其の國の發言權を定める。

常に時代の交通を制するものは世界を制す。

交通機關の速度の緩漫なるものは敗亡の暗い隅に追ひ込まれる。

文化！それは速力以外の何ものでもない。茲に交通機關の過去と將來の速度に就いて概觀して見よう。

皇紀	摘要	一時間の速力
一九六六	西洋人が磁石を船舶に應用した爲め、遠洋航海が發達し歐洲各國の領土擴張の基となつた。	
二一一五二	**コロムブス**が亞米利加を發見した最初の大西洋横斷は、三七日かゝつた。	約五粁
二一一七九	**マゼルラン**の世界一周は最初の太平洋横斷で、九八日かゝつた。	約八粁
二一二五三	小笠原貞頼が小笠原島を占領した。	
二一二七三	慶長十八年日本船（伊達政宗建造羅馬遣使支倉一行乘船）の最初の太平洋横斷は、五四日かゝつた。	
二一二九八	島原の亂平ぎ、外國との交通禁せられ、日本の海外發展がとまつた。	約九粁
二三六一	元祿十四年三月赤穗義士の早飛脚は江戸、赤穗間六一〇粁を四日半かゝつた。	六粁
二四五二	林子平海國兵談を著し禁錮に處せられた。	
二四六一	外輪蒸氣船が初めて造られた。	
二四六三	馬車が**ニューヨーク・サンフランシスコ**間五、一〇〇粁を二四日かゝつた。	約九粁
二四七九	外輪汽船初めての大西洋横斷は、二五日かゝつた。	約一〇粁
二四八五	英人**スチブンソン**發明の汽車が初めて線路を走つた。	八粁
二四九九	**スクリュー**で走る現代式の汽船は此の年初めて出來た。	
二五〇一	英國が阿片戰爭で香港を占領した。	
二五一三	**ペルリー**が軍艦四隻（外輪船二隻帆船二隻）を率ひ浦賀に來た。	約一〇粁
二五二〇	萬延元年德川幕府の軍艦咸臨丸が、勝安房守の指揮の下で太平洋を三八日で横斷した。	約九粁
二五二〇	汽車が**ニューヨーク・サンフランシスコ**間を一〇日半かゝつた。	二〇粁
二五三二	明治五年東京・横濱間の汽車開通、二九粁を三〇分八秒で走つた。	四八粁
二五八九	佛人**コスト**が**パリ・チチハル**間七、九〇九粁を五一時間四九分で飛んで、長距離飛行の世界**レコード**を作つた。	一五四粁
二五八九	獨逸の飛行船**グラフ・ツェッペリン**號が無著陸で初めて太平洋を横斷した。	
	霞ヶ浦・**ロスアンゼルス**間九、六五三粁を七九時間五四分で飛んだ。	一二〇粁
二五八九	本年英國飛行機の世界最高速**レコード**は二十年前の凡そ七倍半になつた。	五七六粁
二五九〇	英國で建造中の世界優秀船は六萬噸三〇節。	五六粁
	昭和六年（皇紀二五九一年）現在の交通機關の狀況	
	急行列車は**ニューヨーク・サンフランシスコ**間五、一〇〇粁を七九時間。	六五粁
	定期航空機は**ニューヨーク・サンフランシスコ**間四、二七〇粁を二二時間。	一三〇粁
	世界最急行列車は**パリ・カレー**間三〇〇粁を三時間一〇分。	九五粁
	世界最急行定期航空機は**ロンドン・パリ**間三七五粁を二時間一五分。	一六五粁
	超特急列車は東京・大阪間五六八粁を九時間。	六三粁
二五八九	佛人**ボレリオ**が飛行機で英佛海峽三九粁を三七分で横斷することが出來た。	五〇粁
二五七九	英國の航空輸送會社で切めて**ロンドン・パリ**間の定期航空路を開いた。	一二五粁
二五八七	米人**リンドバーク**が初めて大西洋横斷飛行をした。**ニューヨーク・パリ**間五、八〇九粁を三三時間半で飛んだ。	一七〇粁

二五三六　急行列車がニューヨーク・サンフランシスコ間を一〇〇時間かゝつた。　五二粁

二五五八　米國が「ハワイ」と「フィリツピン」群島を合併した。

二五六三　米人ライトが初めて飛行機で五定期航空機は東京・大連間二、一一八粁を一五時間。　一五〇粁

大西洋の定期船はロンドン・ニューヨーク間六、〇六五粁を一三二時間。　四六粁

太平洋の定期船は横濱・シヤトル間七、八八五粁を二四〇時間。　三三粁

現在主要交通機關の汽車と言ふも汽船と言ふも發明されてから今日では既に百年以上にもなつて居る。だが最近二十年來と言ふものは速力の增加は見てゐない。

東海道線の超特急と言つても、それは汽車其のものゝ速力は何等の進歩のあつたのではない、停留ヶ所を減じ停車時間を減じたに過ぎないのである。

で今後と言つても屹度これ以上の速力を增すことは世界的に見て困難と思はれる。

飛行機だ！

これからの交通機關は何と言つても航空機の全盛になるであらうことを疑はない。

又これによつて我國も文明國の最尖端に立たねばならないのである。

○四八〇三　紙無時庵に頼山陽の百年祭記念貴石展覽を開く。特好俳句の男女　岳川路風が全く趣味の頼山陽を語られたるを伝聞して来た

榛原製

ので自分も出席を祝しに行かうとそゝのかされたことを後から、山陽の趣味に就いて地蔵山陽を氣を紛しに、別に新しく説くこともないが、物所柄大衆のわうさうに二人を聊か物語らし結果あくまでもたゞ山陽の俳句の趣味の頼山陽と題して山陽の俳句の趣味を面白く書名を余した氏が、実の山陽を概括的の形容詞で簡潔に言へば現ハさうとするまで趣味の人と云ふことが出来る。

山陽の經歷をよく知つてゐるから殊

更言ふまでもなくこゝろ、山陽は漢学の畑の人、漢文、漢詩、史学、書もて京都に名を成れる。京都は我の浪の帝都で、風景明媚の地であるから、風流の人も多く、どんなものも抵抗風流人を気取るつれ、趣味と言ふ実は風流の事もあるから、山陽の趣味性があつれも敢て怪しむに足らぬ。恐らく山陽も京都の風流趣味の感化を受けたと解することが本当であらう。

志かし学問と云ふことこそ、山陽の如く趣味の人でも後世永く御かげを人の無いやうな山陽のあの浪漫京都は文人墨客の雲の如く

複原製

多かつたゆへ、やはり山陽以上の才人もあつたのである。

がどうも山陽程自分面の趣味家は無つたらう。山陽は方面の趣味家はあつても、あまり趣味が低級であつたかも思はれる。例へば中路柳隠などいふ才人の弟子は山陽の家に隣して住したこともあり、銅鑼坊と自分の場を命も面白がる、時々刺客に成て出うけて、自分から鑼を刺いたりもしれ侍も文も巧みもいろ〳〵面白く詩が侍つもある。如何のしい口印の漢文小説を作つたり、自分の娘を酒資に困つも島原に売ることもすらある。通人まへ相撲(達)をへかい、山陽の(後世)人の

抜味を指すことばのようである。

梁川星巌なども、豊後海辺などを、中林竹洞山水

梅逸、高田竹江、篠崎小竹、僧雲巌などを、七人

詩書画を能くし、風流界に名のあがれる人びと

であるが、抜味いう事は長ずる所の抜群限りなしとして別格

山陽と比肩すべきものは無かりし、精細敬服すべき

ふ学者は山陽を遠ざけ、任侠の力量のあるを

が抜味の點、すべいの全然空虚であった。

山陽が如何に卓越の抜味性に富むかは、その

詩を論ずるも其文を論ずるも其歴史を見るも

皆その理解が出来る、山陽の決して詩を作る文

を作る歴史に於て、当時の抜味の推ずべ

きに無い。抜味を指すことばは、人の詩の詩人の詩びを

晴らしたこと感じたことを、先ず自家の胸

味のこ論をみる、あの人の文章も決して他の学者

こ倣ひ底めかしく書かるいむかしい文部のこ

とをとるを引くことをしないで手近かい眼前のこ

とを生かしてみるが抜味と抜価とが

付いたのけんが出来る。歴史と云へば

若者うるさい日本外史であるが、えんも今く部体

の歴史で山陽が無ければ書けるの歴史がいる

説の多くの史家いは左傳を手本としてみる所が

山陽いえを排して、いこそれも日本の歴史い日本

式であらねばならぬと云ふ主張が、戦争の形容
詞が人物の描写にも応用せられて来たから生ずることゝなる者いと
思ふから、面白く読めるのである。日本外史の実は
抜味の歴史が、北朝に対する破天荒のこゝろみであ
る。

以上のごとき（今の）時勢と（遠）かつてゐる漢詩文を云々しても
おもしろい人もあるかも知れぬ。山陽の独味性を言
ふ語さへあれば、その手紙でもあらう。山陽の手紙の
名人たる所以は、山陽の人である、山陽の手紙のな
ほつてゐることの面白さにあるとでもいふべきか。
人を読んで見ても時かゝる気分が（充充が童）ひ安伴が
同じくらゐのものだと思ふ。

榛原製

嘆麦つゝ粉の者ゆるとの面白さ。かしく形式に拘んで
ゐるへ、どれを読んでも当時の情景がよく書かれ
て居り、人をそらさぬ面白さがあつて、いくら情趣者で
も山陽の書簡をそこなふと笑顔をうるおしく
させるものがある。そんなものを物語る物語に指て
も自家の地位を占めてゐる。私手まりをい詩
も書き、漢詩も書いてゐる、読詩も兼してゐる、八情
の面微を穿つてゐる。ぶうきく手紙の色合
まで、組織ひもの味ひ、所産及ばるへ、浅人や地を
や、山陽の独味いかも手紙に就て見られる。山
陽の手紙を通覧すると、充分な隠
筆を見るが如くである。見の隠節頼山陽

を著はした時は、山陽に陶淵明のようなところがあるとは誰れも知らぬ。

手紙に大切なことは書いてあるが、いくら文がよくても書かなくてはならぬ。一向書物しか書かぬ。山陽の書いた殊に手紙に於ては、山陽は学問を捨てる。山陽は蒼茫湖と名乗り書法を知らぬと罵られたことがある。或いは、うかつに知らぬ人が山陽の書を見て善人受のするものと無いと、美意書と趣味がある。つまり進んで快感を善紀すからであるから、山陽の趣味はどんなつまらぬ俗物でも感ずるのである。

山陽は詩歌をして西もかき和歌を詠し俳句曲も心得り平家を語り一家刺をやり、書画の鑑定や骨董品をひけらかし、また大きな酒客であるあの人の家は大きなどを立派なものであるいけれども、山紫水明荘とか書斎は松おのもとにあるいけれども、陽屋はあつて景観を占領しているが、微風果敢味と満ちて清しく不足のない。私は微頭微尾山陽を趣味の人だとは云はない。それを価値とする技術を近年私は幸いに得た。得たものの足りないのである。それは常に山陽の長に異なるものであつて文度差異其他の什器四十脈と雖んとする事は知る知る方法を侵犯されてあるのを見た。

文房具と云へば硯重箱硯箱印籠などの類
茶器と云へば茶托茶筒茶碗菓子器の
類家内雑飾の什器と云へば額面花瓶烟
草盆箕箒酒器の類ひあるが、とんと見た
ことなし山陽の詩が刻された扇子の交友が詩や
画を以て化して居る。器物は決して主流ではなく
し山陽の詩が無んば二束三文のものである
が、それを山陽自身が手をかけたものだけに
趣味のあるものである。山陽の書画の写真
を初め何から何まで自心のものを用ゐて
あれと云ふ観がある。えらい山陽の趣味を見

橋原製

るの好適例ではあらうか
山陽のいうて趣味性を斯く量産に有へれうと
就ては自分の理由があるかと思ふ、山陽の若い時は
随分放埒でつやや行を心つけた男であるが、ルンペン
時代は随分つらい目もしたから人情の機微も
や世間の状態を知り抜いてゐる、母を慰めつる為に
えらびくく長金の旅のもやうを各地を廻歴し
てゐる。山陽は落ち着き人である
なる。帝時の学問と云へば本一辺あつたが、経学
者は趣味とは相離れ容れんものとうして此
のキツクツの学問を制肘さうなが山陽の経学
者ひはそうなかつた。趣味の為めは大ろう仕合

じあつて相違ないが、北華の事情は悪く山陽の趣味性を涵養する上の原因をなすに充ちて居る。尚頼山陽は春水を父とし、北華の人々の文人趣味を敬愛し、春水は其父として、北華の人々に交いる人々とは比べもあるまいが、高山彦九郎、中田(仲田)河内介、平江文石、僧月照、画家の谷文晁、頼山陽、春琴、村瀬、陶工の青木木米、詩人の星巌、篆刻家の市河米庵、彫山水の彫山、北華の門友の日夕往来して互に趣味の交換をしたであらうから、山陽の得る所も尤も多かつたであらう。

山陽のやうな大才が等閑する所の趣味を発揚

横原製

すること、人心の奥に潜在する趣味を呼び起すこと、言葉を換へて、但人の弥栄を祈んとすること、詩を生じ、或は趣味に惑溺して失態するやうなことがあつて苦しからぬ。義を重んじて乃ち、山陽の長い間放浪して金銭の貴さを感じてゐたから、趣味の為めに決して金銭の数策をしないやうである。勿論頼山陽の執着力があつても、一旦捉らつたら千万人が如しまつたく尊心を光らせ、自尊心を光らせ、抑制して社道を山陽が陰地で社会の寵児であることは

折紙たつ

巨匠の作

湛慶康圓等の銘發見

三十三間堂の佛像

【京都電話】御ゆかりの名曲「三十三間堂の棟木中央」で知られる京都三十三間堂は後白河天皇の勅願により創建され、堂内の佛像は世界に比類なき傑作として文部省ではかねて國寶指定調査方を考慮してゐた

※

同院では一昨年三ヶ年計畫で建物の大修理を行ふに當り佛像鑑定の大家で文部省古社寺保存調査會員新納忠之介氏に指定佛像調査を行はしめることとなり新納氏は本春五月來同院で南北安置の五百體中四百五十體の調査を完了したが在銘により全部が文永二、三、四年の三ヶ年間に造られた鎌倉年代の傑作で世にも名なる巨匠湛慶（運慶の子）及びその子康圓を始め兩法師をめぐる定弁、覚弁、弁圓、助運、定覚、助覚、快順、助在等法眼、法橋として名のあるものの外でも約四、五十名に上る名工たちの在銘が發見され湛慶を中心として當代の佛師がほとんど總かかりでこの群像を作成したことが明かにされた御明春再び殘余五百五十體の調査を遂げるはず【寫眞は大作の佛像と湛慶の銘】

※

【奈良電話】新納氏は奈良市鹿司町の自邸で靈文部省の命で内密に國寶指定の準備調査を行つてゐることであるが意外にも巨匠の作が續々現れるので驚いてゐる、佛體のほとんど全部に銘があり湛慶、康圓を中心に東西佛師の名を網羅してゐる、中にはこれまで知られてゐない佛師の名も多數あつた、今日まで高知縣吉川郡雪蹟寺に一つしかない湛慶の作がここに五體もあり又佛師名のみ殘つてゐて一つも作のない康圓も二體あつた

※

湛慶の作中一體は現在國寶の本尊で台座の心柱に法印湛慶八十二歳の作との銘を始めて發見した、湛慶のは群像中流石に出色の精神を感じられる全部鎌倉期の作だが足利、德川兩期に一部修理が行はれ一體德川將軍家光が命じて作らせた台座があつたしかし今まで知られたところでは一般から見られてゐるやうな各時代に補充したあとはない、あとの佛像中に同院炎旗前にあつたと思はれる運慶あたりのものが出て來るかも知れぬがともかく國寶指定に有力なものが多數出てゐる

○九月八日、午後一日山陽氏を訪ひて終始す、山陽デー
を謂ふべき歟、日本郵便加入罫紙（福田、河
北、新蔵）、北海タイムス）の編輯、朝を山
陽と就て、その系統を辿ること、午後半刻、また千数枚成る、千
後、後藤氏数来、三州橋本山陽遺墨展覧会なり
り、一説す、法象の筆跡、著名の墨跡、多く偽造出
づ、九月を慕き、坐義軍一を模造して
偽の一隅に掲げることとす、二字三字竹を列ねて
を成す、幕府の時、坐義軍の筆式に倣へるなり
りと思へり、えを見て懐二を名のる山陽の偽物
を物語る浮きたり、北の堂、坐義軍八仁家と弟と
午後五時再び三州と別れる、時に伊東部と招う

複原製

れ今宵と共に酒食す後、今宵の霜と共に山陽
と就て一昨問ひて、諸説を為す、北今各方面
の趣味家の集まる所、今宵中村後の人も出
で、佐藤朱仁、杉井、杉谷、岡川、嶋田、長谷川、
高野、朱仁、[illegible]、[illegible]、[illegible]

於て講演し居る余の山陽は前述の稿もまだ今衆の
顔振を見て思ふ所不多、山陽の後味を語する
を又今一、寧ろ山陽を評し居る。遺墨の陳列
中二三掲すべきものあるも毎元の後に譲る。

○尾崎行雄と時政党部を分ち維新志
料に就て語る、尾崎行雄云く、板垣伯洋行費の
金額出所に就ては絶対秘密ありて
どう詮索しても分らぬ伊藤公の
書翰を見る初めて分ぬ。故の金は井上馬
三井と謀して出金せしめたるもの故額は二
萬圓、政府の地の弱用金を命じたるもの、三井
が政府を迫ぶ迫ぶきを金を十年返納を約する

榛原製

ものなりと試に耳寄りの話
○同一席に佐々木弘綱と話す余問ふて真淵の書
に春朗帖を擬したるもの余花まで其の体漫然
流暢を溯き甚だ高拔なり、真淵の色と斯の
如きものなりやと、弘綱云く其淵は晩年書
変して春朗体を長んじて書く、恐らく晩年
のものなりと

○余が高橋義彦氏に引受りなる古画の内
松平乗全の山水と井伊直弼の和歌ある小軸
あり、画は狩野風なり、松平乗全伯の人なるを
知らず、何んなる人なりや直弼の人なるを試
みに問ふに答へて曰ふ故人なりと、左の如し

松平御祥　延享六年御書院番に列し
乘忠の子　第六　天和三年家を継ぎ五百石を賜ふ　享
享二年三月桜間番に移り十一月御書院番に
かへさる元禄十年摩米百俵を改めて采地を
たまひ下野國の舊地を上野國緣野多胡二郡
五
の中に移されすべて百石を知行す寶永五年
番を辞し小普請となり正徳元年致仕し月峰
と号す享保七年四月八日死す年六十五法名
常圓　寛政重修諸家譜
（生の松源寺に葬る）

No.

えて頼んん来金の可ろうたる時代の人ろう所の遺
ハいえんろうたるーと思うんず、或人他に日名英
人あるか、尚ほ元祐を一覧す
○京都の恩師坂崎紫瀾長初田不二男ら十月一日よ
りの紙に於て山陽の伝令を写くるつき金の指導
を仰ふの去月湖南の書状到る日時に内藤湖南の書状到る
湖南の古今真と山陽をなるこのの市好奉感謝
又と初田に保しなる由初田の出面にあり、大分買い冠
りろう、初田と迎前を異くるきこつき今一回三伝の展
覧今ようろう必要ありとなく、今又行きえう、前
回ろう来しく見ることが出来、山陽の遺筆と頼る
既味をうろうとろう、先ず京都坂崎紫瀾に於て

頼山陽先生遺蹟顯彰會事業計畫書

事業及經費

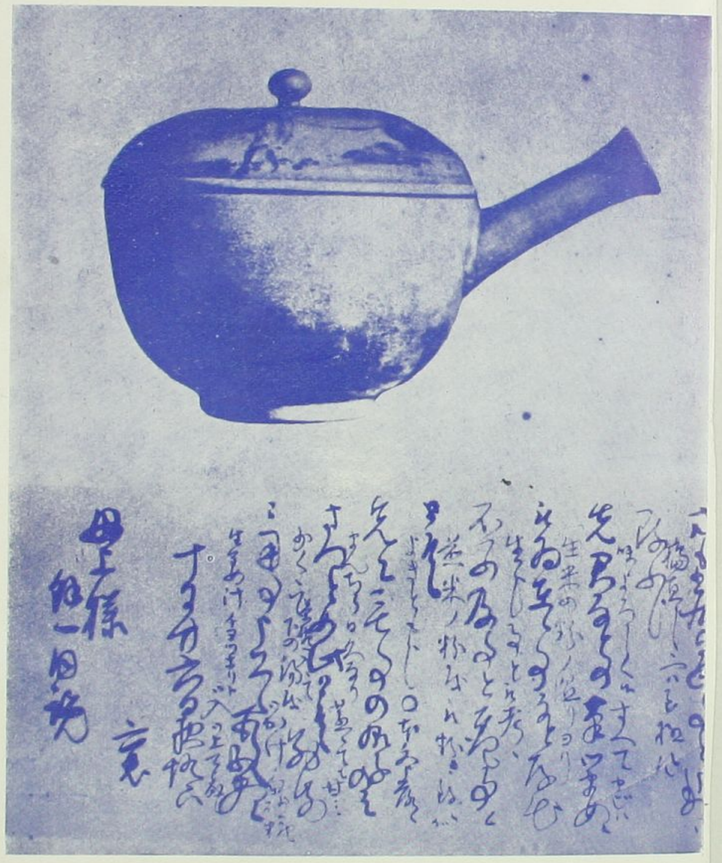
一、山陽先生ノ百年祭ヲ執行シ附帶事業トシテ講演會等ヲ開催スルコト
　　經費　五、〇〇〇圓
一、山陽先生ノ舊居（在廣島市）ヲ修築保存スルコト
　　經費　三〇、〇〇〇圓
一、山陽先生ノ緣故ノ地（廣島市）ニ記念館ヲ建設スルコト
　　經費　七〇、〇〇〇圓
一、山陽先生ノ遺著遺物及關係アル書籍繪畫ノ類ヲ蒐集シ常時又ハ隨時陳列シテ一般ノ縱覽ニ供スルコト
　　經費　三〇、〇〇〇圓
一、山陽先生ノ傳記資料ヲ調査シ逐次刊行スルコト（頼山陽全書刊行ヲ含ム）
　　經費　一五、〇〇〇圓
一、舊居記念館等ノ維持保存並ニ將來事業經營ニ要スル資金ヲ積立ツルコト
　　經費　三〇、〇〇〇圓
一、事務執行及寄附金募集ニ要スル諸經費
　　經費　二〇、〇〇〇圓
　　經費總額　二〇〇、〇〇〇圓

經費出所

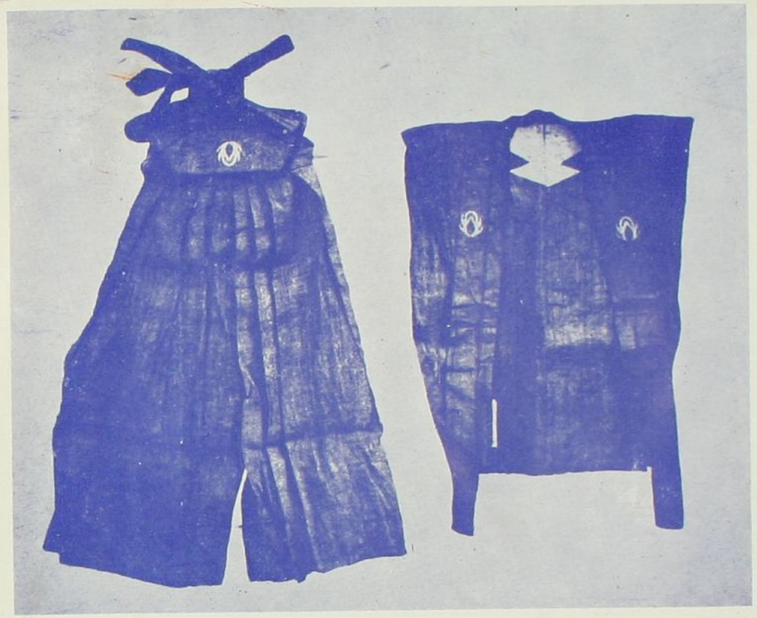
寄附金及縣、市（廣島）費補助金ニ依ル

備考　經費ハ其ノ大體ヲ豫定シタルモノニシテ實施ニ當リ之カ增減ヲ來スコトアルヘシ又經費總額ハ最低額ヲ豫定シタルモノニシテ實施ニ伴ヒ增額ヲ要スルコトアルヘシ
事業第五項ニ於テ「頼山陽全書」ヲ刊行スルコト、シタリ從テ經費モ相當增加スル見込

複原製



饅頭蒸器を母堂に贈りし書翰　（安藝　内田小彌太氏御所藏）



頼山陽先生幼時の禮服　廣島　頼家傳來

小伴の機柵を以て湯
もあつのみうそ云ハ字
外ニ、高今父母如ハ
隣来治の人も山陽と称
んとすることあり、其
拙て伴機を陽て設
りとうこん伴機の制
伴と思へしの左ハ
元伴ニ、し列品び
母を慈いたものあ
ものあ一を挙
文章あるも、自分の今

複原製

まで一見を経さるべからず面白おもしろき歌しらべ宇治川
戦陣の平曲の一節を人に聞まんと横笛を吹き給ふ
るに笛の歌謡の例に倣つて無量こんの大会の
所作と為す、亀菊豊二氏●花の日本楽府稿
本の大芸術を説いたものしかるに稿本の旅と
なりて迷ふ、余が嘗つて義経記の稿本の
進んだ手を為すかなりとて東河会第大会
の出品となる陳列さんかるべし、特に平家軍物
良弁の額面いつしか主を失へるを見ず
他に所作の表意も可なるべしかるに神戸幸一
義のみも殺風景なり廣崎新家不義の東坡の
図に山場の歌舞伎なる情を出てあれ、えい廣崎先生

東京製

の能越衛が嘗て新家ならも義経を決して度
印をいたすとの傳説を附して特別なることを
とを思ひ出す、去の十九日博覧会見物
尾道藤井宗二郎出品の酒造の大看板に表面寿
の大字を刻し裏面に乾坤一
を得し、改章義歌の山場に余未だ見ず今
家新東西村巻三所作の一行抜出されるべし、
屏風にて東南橋本辰二郎氏の
木下長孫氏の出品の清水八幡宮の曲屏
又幅の小坂順造氏の義経記の大文字
八幡宮全部大曲
べて吹き年大祖の書を特に
ハしいものを見せる人をして愉快ならしむ
九月十日の誌

○探偵小説や探偵映画流行の折柄、大阪毎日新聞社ハ、ブラウン、チエンバルと云ふ一青年を譯出したこんハ米國の秘電局ハ十六年もたへて、世界の秘密暗號を讀破するに長い研究をして成功したハーバート、オー、ヤードリの実歴談を譯したものである。亦世界の大戦の際のことが多く書かれてゐる。殊に日露の戰争の際、米國が日本の秘電を讀んだことも出てゐる。いくら男爵でも「ルとは云へ。國の秘密をザルマケに書き立てることが出来ようとは自分も数多く世界の大戦争、各國が互ひに軍事探偵を流し合ひ、敵の可らざる事実である。此の探偵ハ兵力よりも大きな

榛原製

働きをしたことも例の少くない。勿論軍事探偵ハ命がけである。そこで軍事探偵がどうして互ひの本國と通信をしたであらうか、そこが極めて興味のある秘密である。何人も聽かんとする所である。電信暗號ハ世界共通のものが定められたことも多いが、機密こそ電報も信号も或る事者でなければ絶対に解き得ない暗號ハ無んハなるも、此點に於て世界の化学者が如何に苦心したか、云ふまでもなく、敵味方の智恵を絞つてゐる。そこで化学者の極致の智恵を絞つてゐる。そこで戦争の時の戰争を此方の程度まで進歩せしめた。それも更に、ある國を相手に人を迷ふ暗号を工夫す

る、そうすると他の或る図は美を解説する力を
極める、解説が出来ると、最早折角苦心して作つ
たものが無用となるから、更らに工風をせねばな
らぬ、それが解説される更らに同じことを繰り
返さねばならぬ、各図とも巧みを時節に表すこ
とが難かしいから、その術し進まねばならぬ。図絵
電信のぬき徒さ表面中央図と云て見ても美宣向
背のハツキリしたる図の電信線に接ふ絵ぬこ
とがある、図絵文書い神聖のものとされて開封
が許されるいものとなつてゐるこの表面の汚決で
事実い電信ひも文書ひも解説もし開封もす
るのである。勿論開封をも期してあるから、文言は暗

複原製

號び書かんとするが為に重ねおせられて封緘せらる
ンのが押してあるけれども、それが皆開封おさんと巧みな
四のやうにおさえて痕跡を存しないやうなさえの時
節文も亦或る手つ家と伝つて漢のるから、秘密の
大事も実に間抜けである。スパイはあるインクで
手紙を書く、それも全く色が印さんちへで白紙ひ為
る、若し或る必要ひ検すると又密かにすつくと現は
れて来る。後書いどこまそのインクを置くそれ
あるらうが或い小瓶に入れて薬剤さいまわし香水
の胡麻化すやうなことがあつても、別産とえんなこと
ひい胡麻化せるへのひ追る隠し術を工風し或い流
体を靴下る詰めにそうしボタンを深めこまし

して用いる時まえをえこ黙して書くやうのことがつとめる。探偵を換おする術も非常に進んで来てゐるから、設金ひ秘密のインキを用ゐることも文書又は他者に露顕を避けるため用ひる事実のセを隠蔽を黙殺しというそれも列らべやうのすることが普通とうつてゐる。ある女の秘密探偵は本郷から或る遠藤大薬庫を爆発せるの命を受け、爆弾を携えり着せる田邸の傍に立ち、遂にカツリツリ数の尼に扮ら いて田邸の傍の傍とそえを立する大理石の厨まとを注文させ、その中に爆弾を秘めて輸送することとなくそうんびとそふらんへ後に実のさんちかへいが、実に容易ならぬ事をやる。時報を心

ゐる最も巧みなる方法であるが他の四つ
でもそれ〳〵特徴がある。陸分時号の原稿を盗
み取ることも巧みに行はれ、或は買収をも行はれて
ゐることが書かれてゐる。地方から冬期の時報
を偽つてゐる場合もあるが、北者の方つまること
いくら複雑なる思想の時報が、鉄利を研究
び秘密の鍵が捜えるとそのプロセスが丁寧日々記者
る書かれてゐるけれども、雑報の統計や数学のこと
きまでも五月蠅の訪ずれ容易に分らない
秘書の終りの方は日本の秘密・電報・軍編
に関する章要の電報を盗読し得るやうな
ものは任意か毒也書かれてゐる。流石の時報

利淡の天才なる北英者日本の時勢を解するに
修行業学して一年心研究してようく解を得た
ように日本の言葉は世界の数のうち最も偏
文字も一種変つたものなれば、困しんだのも尚
ある。偶し到頭判は得た。但し北著者は少しも日
本語に通じて居ないそこで譯文を作ることの米
人が日本語に熟達のうえ無けれども、やつ
と宣教師を得たが北人は為に北仕事は
御深事務と切て逐に戦を試みたが
大切な軍術今後の際に日本の時勢のグン
く利淡し得られたように、只北日本も盛淡を
感れいとうとうて、英語時勢を改訂して

蘭学者倒のようをしたが、ポーランド人が日本政府の
為めに北つとめるこんなに丑米利加も国
つたが著者は既に北国の研鑽を積み日本時勢
に就て下地があるから、どうかこうか北の改訂時
勢を判り得て軍術と関する大切な秘密電
報の時を盗聞することが出来、その譯文が
一々掲載してある。さてこれ恐るべきことである。
英及文字の後文如何ときとロゼッタ、ストーンの
石刻文字を学者が研究したように起ったのだが学
者が二十年以上も苦心して漸やく解したウイ英後
全部御書つたと云ふ清さんも英後まだく研究
を続けたらしい成功したとあるが成功は二十

六年もかゝつてゐる。暗號を作ることも方式もあるから
死語を解することも容易である筈だ。其つ正解とな
れば容やすい事実に徴する使もあるから、死語を解
することも亦容易であらう。人間の定めれ謎が暴人
間を使つて解かんとて実に不思議いろ〳〵謎でも解く
暗號は人をバヅルする最も大なる謎だ、こんな
ど非常の大切なことは無いが、国や人の秘密を内証
にすることは一種の罪悪である。国際上に於ても
は友邦に対する以上の信義を破ることもある
ことは言ふを待たぬ。偖し暗號電信の盗聴
は今は公然たる秘密となつて、どこの国でも行はれて
ゐることを思へば、国際上の道徳などは事実

榛原製

に於ても捨てゝもゐるのである。

軍術会議に日本の秘密電報が盗聴されたのはワシン
トン会議の時である。第二の軍術会議の時すら
米国の諜報者は北の秘密室の閉鎖を命じ
国際文書の不可侵を宣明し、十六年間一心
に北の事務を無いうちに一斉に失業したと
若者は云ふ後と言ひたい。
北の若者の言いぶりは世界大戦の際米国電信電
話会社が電信暗號無線電報を調査のため
で反対の立場もあるが(全)中盗聴されて憂もある
と云ふんである。それはタイプライターもキーボー
トを叩くと叩く音、(善る)の文章がいとなる時

弾とちがって電信さんなる。電信の字の説ハこんと四時頃、この時弾ハひとりぼっち解弾さんとタイプライターを打んで出て来る。茂受信機の前で盗聴者がある筆記してゐるところで、何の意味もなさぬ文字が乱雑に出てくるのを後来忘きるの日ハ盗聴が出来ないとなるべく後来忘だくさんと時弾者の内でも優れたこの様に思ひる。

○時局の事柄が段々大変に成行く時代を知る者人達も多く生存ハ

なれ。石井菊次郎さんなどハ支那公使ひあつた頃、その出記者であつたとかひ、その際のことを話り出された

丁度日露大戦が終了さん西太后が無い座の政を為す時び外交国ハ斯るアンコンステチユシヨンの政府ハ認め難きものの御論も出て、大臣いなも来のようらしいが石井さん支那、支那ハ大変と思ひ付いたのハ石井さん宅とかいハれぬ。と論じ出した大臣が中国の生時代を大臣の宅を活論を戦時した冊宅して置いたのを取り出して、それを振りかざして攘夷の部を分と示しあるとかの様に出たのを分も動るうち思つ嘲笑した。この頃の様も出た大巻の話しの為ハ次初年分と迫つて来海道を旅うしたことがある。その際の話者の士族が動もすると動揺するので四藩さん多く四地と相くて鎮撫をすると

榛原製

し比東海道を西道の落ち唱る変化びあつれと云ふ
矢野氏の主流の人格びあるから、有難くいいどこの
大名びあるかと、いろ〳〵あるべき事びて私語りし。矢野氏の兼吸
びあつたから、どこうそも家扶扶を受けたと語つた。
錦田栄光の演の内さ福津翁いたきさ演説の秘訣
を授廊さん比が、翁さは一日を置かん、演説い矢野
氏は如何と云ふ比。ある時翁い演説の秘訣は宮の席
びやるさ限ると提撕し、矢野氏び師見した
が、翁い錦田と他の一人を伴あて、日本橋の料亭
の宴席び演説を実行しることがあると吹聞した
のハ今さ初耳びあつた。錦田の演の内びあつたか、井
上馥の中さ矢野氏翁と矢野氏の意見を異にする

常さ弟子比が、女実井上ハ矢野の人格と熱心の
主流さ敬服し、自分の交つた範囲びあんさ人
ハ無いとまで褒め比と云ふ。流れ出た。徳富ハ矢野を
評し拙めて剛切の士と云ふ。あの人の態度
と品位を見ると、保守の人の如く受えんこが女実
あの人さ比。矢野の説を拙しもある人ハ多へ。あの経
四美演さ比ハ中民演めハ愛国教吹びあるから実
ハ情義を教吹する書とも見られる。全く蒔絵の裏
面を得て如る、さ〳〵新し味が有つて、西洋祝
祭の後、全然報酬する者の体裁を一新した新
文界と比を示し始め経田美演さ比も東洋

をつうつ且てあん比けのようものを著したるとも称するなるべ
きいあり比。十二月の記

○先頃フト幕府の蔵書始末記の写本を得れば、幕
府に於ける図書を以て如何なる方法を考察し此
の始末の前書に大要を掲げ置き。偶と図書頭塙氏
始末を案の行を需めんとかなり、四北の例を数
衍して案の行し比。幕府の蔵書の来歴や考証は
山崎正董氏の著書に詳しく書かれ居る。近頃
有名の著書目録を出版せり。解題の
ある書に解題の
ない書目録を出版せり。偶と幕府の蔵書の
方が目録と附随して心つれば始末記がある筈比が
自分は未だ見ない。自分の得れ当ちハ

模原製

ハを写し比ものなれば、未だ切り得ないが、兎に角
幕府の書物の来歴方は今の図書頭に於ても
一度切り至るべきものと思ふ。十六七ヶ條の書
めて多の調査を試みれば、その文は始終の書
利を待つ其切り校を収めるから、変ずる時す
る

丁度一以上の稿を草稿中来月九日石川
氏金澤に帰る筈の図書頭大久保氏に於て余
の講演をとの事なれば、自分は前説を其
へて一考し比が賀れ相雲公の如き図書の大蒐集
家大蔵書家を藩祖に仰い比図である。そこで
全国の図書館関係のものが今まで比かから、その

機会に於て講演の業をなすべし。熟々松雲
公を顧み奉るに、芸州。土地柄その藩祖の偉績
を挙げざることが禮なるべし。亦此国書松雲公の
国書蒐集は公の事蹟の内び最も傳ふべきこと
で、此点に就ては公は宝前の人びあるからでもある。
尚ほ松雲公の国書蒐集に就ては、今も八方後も
公を学ぶべきことが少なくない。その一端を條列
すること、

一公自身の徽識があって、和書の如きは特に
自分で選擇し、木版錦宝宝鳩巣などの
著作を捺掬して卿著は和本は理解がな
いとこの通り

一帝の大業を任かせられ莫集が弱き度汎
に渉り、為に金力が続き得ざるべし、
貴重のものも、年を入れさんば已まざるべし
の金剛峯寺の金堂を利尊氏公
の紀念宮殿から年を入れ
一原物の写れ難いものは謄写せしめた。尚
時は田家でも借覧の得無のを法家
の秘録を写すべしとの
一借覧の書を原のまま思召大変識
儀を拝つて、これが巻の法家は前日
ら貸すと云ふ。東寺の文書をも
まる時は、各紙を少なく仕立て、百の

之を納めて返したるなどいふ其一例にして又三條西家の秘書を借りて其礼に書庫を修繕したやうなどもある亦その一例にして

一 図書の蒐集家で古文書などまで手を延ばした例は餘り無いが松雪公は自筆物のこと

東寺の百合文書を惜く勝宮しに

拾ふ修史局がやつたことを早くやつたと

一 図書の修補や装釘に丁寧であつた

嘉倉の徒らに表裏を厚くして

古書畫を修繕することを同じことをやつ

た装釘又は図書の移動に依り、

複原製

なくの方式に準拠したるその極まるべきを軽

は離形が今日の修繕の範を

示したるとなることが出来る

一 内閣を過ぎしも支那と共に手を延し

北京の事物はその全部を特別に入れた

の最も大なるものとしても元の

が実は前田家の蒐集家の影響を挙げる

ても能くその前田家[redacted]といひ此載するもの数こそ

屈しないのであるが、前田家のみは

図書を利用した點は天下第一であるの個と

府と外務とは就中の内閣の

柄で、政府から常に前田

の国書を偽造したるものなり。前田家に存する文書
のうちへ、その府が皮肉を言ひて、南方は海蛮寺
業の為めに国書を集めるか、要する方は何んの為の
ことを蒐集さるるかをとゝめて、之を新しく
前田家での集めた後で利用するのだと考へてゐ
る。前田家の蒐集は既味深い住びあつて、たとへば、既味本
住の蒐集家の最も大なることゝ云ふことが安東
あらう。自分の金澤で行ける講演でも松宮氏
就て其の国書の書誌を説きたいと考へてゐる
○川路歌舞（聖謨）の遺（卯十五歳）を其家で見る
ないとなつて印譜を書画高く持ちて寄贈
した。中の一顆は久間象山の刻で係る氏名印は

樣原製

注意を惹いた。此は格おのゝ
ちいつて買はずして了る。　　候がお打ち合
○若し元者の冥福を祈る為めに任文を手写して　九月十八日記
寺に納めれば御ハ書くるもの少なくるべい。予孫が父祖
の為めに此例もあれば臣下が君の為めに此例もある。
今日偶然北條の宮任善門弟一巻が手に入つた
徳川五代将軍綱吉の生母桂昌院の為めその
養龍と受けた任務で豊前守冊況真人直重
が十巻を手写した其内の一巻である。桂昌院
世ることもあるから、斯る宮任の標本として任
巻部を加へて置くに尽きる。尾の講演は此のまゝ

従四位下豊前守冊況真人直重

敬奉寫大乘妙典善門靈苑一拾卷為
桂昌院殿位一位仁誉興國慧光大姉尊
靈御追薦供所以祈冥福者也惟
右大臣正二位右近衛大將源保吉公之
太母君也天賜獻性聰明英敏能次善
道助
大君英崇儒佛保愛衆庶弘是周太
姙俊神功之垂匹也臣直重陪侍
大君有年且以外祖信濃守直相當者
仕於
彼木蔭邸歟有四方屢召見恩遇忠超

榛原製

每命曰泄林忠勤慎
無諷之勉哉乎臣不佞感激且戒且懼寶
永乙酉春正月二十二日
大君朝覲
太母君就設宴賞之饗宴及歡樂之半
太母君特召臣親賜御服命曰
吾高歲之後尤叫勵忠誠矣入夏以來不
豫萬方不効冉冉至老焉立月十五日猶留
之際召臣於寢殿錦褥之下熟命後事
于時豐後守義原侍女一人而
已 導養如斯鴻恩無疆鴻乎凡樹不
止蘆扁東手至六月二十二日奄然捐館焉

嗚呼韓注失彰其真天圓極泰山頹今梁木
懷今何以喻之臣既徹裏無補報但公能
清閑此書所幸典一字一淚稽成
拾卷伏見
尊靈永離塵緣超証真乗
大慈大悲莫無昭恢
寶永四年丁亥六月二十二日臣直垂敬白

後漢の蔡倫が紙を作りし始めなり。
大抵い善き紙の扇を紙で包みたるものなるも、伯母の
い流石に白のナメシ皮に包み、今は七日経とかいりあり、
二扇共に細字に伯母と書しかの印を捺す、北枝の扇
子の模倣をなすを遺へし、一紙造墨を深ふ、その
文に曰く日々慎て勤むる人に福の神、義勇の印
もあり。
○紙屋の松屋吳服店に上紙(紙者)屋号を冨も
ひるがえり、婦人に関係の多き物なる紙者(びまびし)乗つ
て数金花(かんかん)文字入の一枚し此。振数金の実況
土石屋の瓶の漢書、トンネルの移動然然金属製
と木製工事中出来して一年後工事を中止した

四万温泉は海拔約七百六十米、無色透明の弱食鹽泉、溪谷の美、交通の便、旅館の設備等のよく揃つた温泉場で、伊香保と共に上毛温泉中の自眉です。

澁川からバスで往復二圓八十錢、約二時間かゝります。一泊二圓乃至五圓位。

川原湯は吾妻川の溪谷に臨んだ景勝の地に湧出ます。泉質は無色透明の硫黄泉。

澁川からバス往復二圓八十錢。一泊、二、三圓位。

草津温泉も矢張り澁川からバスがあります。片道二圓七十錢。

草津は海拔千三百六十余米の高原に湧く硫黄含有酸性明礬泉、旅館の數も數十軒あつて、冬はよいスキー場となる。一泊二圓乃至五圓位。以上が吾妻川入の代表的な温泉群です。

沼田から入る東入り即ち片品川入にも老神、穴原、白根、丸沼、川場等の温泉群あります。

後閑から入る西入り即ち赤谷川入にも色々の温泉があります。途中の茂左エ門地藏、鹽原多助の生家と墓等を訪ねてみるのもよいでせう。

湯宿温泉は鹽類泉で南に赤谷川を控へ三國街道に沿ひ如何にも田舍めいた、のんびりした温泉場です。一泊一、二圓。

上野、後閑間三等片道二圓十四錢。後閑、湯宿間バス用五錢。

笹の湯、湯島はバスを相生橋畔ですてゝ入ります。川を下

榛原製

際の出入の狀景、雪中掛負工夫生活の狀況、漸やく振り直して他の一端を知り穴ちし充後を見る事出の狀景、拔穿法の花々の樣式が或は模型或は寫真等で説明さんより説明勝際他の寫真や模型も多く陳列さんあり、流石に大工

係りあるあるの四芳花を備えた四人の若い娘が訪ねたことがあるが、四十六人にどんな活者が刻まれてあるかれは無かつたが、人名生涯の部から生れた三上於菟吉の創作「義士」を後人で此れを活者を特色のあることを知つた。四十六人の義士を何れも双剣の二字が光り輝くとある大石内蔵助の双空海剣長士、光以下の長士の花々を信士とあるけれども活者の矢作り走田忠左衛門が双仲之剣信士、原惣右二門の双峰毛剣四信士、大石主殿の双上樹剣信士、堀部安兵衛の双雪割剣信士とあることを

○

上越線といふのは上州高崎から始まつて奥上州に入り、上越の國境を清水トンネルで通過し、越後の宮内で信越線に連絡する、延長百六十二粁六分の線路の名であります。

○

秋風の夕、上越線沿線の山々は紅葉、波斯模様の美しさに燃え立ちませう。紅葉郷は又温泉郷でもあります。

○

木の葉ちる朝、上越沿線の山々は早くも新雪で輝きませう。年を越えて三、四月、尚スキーを用ゐるに足ります。

○

林間紅葉を焚いて酒を暖める風流と、縦横、雪を蹴つて滑走するスキーの快味とが皆様を待つてゐる上越の二國であります。

○

上越の二國を連ねる**清水トンネル**に就て次の物語りをお聞き下さい。

○

高崎から澁川、沼田、水上と次第に奥利根の地に上つて來た線路は、湯檜曾川の溪谷からループ隧道となつて、急にその高度を加へ、群馬縣利根郡水上村大字土合に至つて、谷川岳に突當り、海拔千九百七十八米の茂倉岳の直下をくぐり、延長九千七百二米卅三センチ(六哩二分)、新潟縣南魚沼郡土樽村大字土樽に出ます。これが東洋第一、世界第九位といはれる清水トンネルです。そして湯檜曾でループ隧道となつてゐる如く土樽村大字松川で、も一度ループ隧道となり武後湯澤を目がけ、魚野川の平野に驅下るのであります。

隧道の中に分水嶺、國境、縣界、信號所等のあるのも面白い事でありませう。

トンネル工事に着手したのが大正十一年八月、總費用が千百七十二万五千三百廿余圓、使用延人員が約三百九十四万二千人、貫通したのが昭和四年十二月で、出來上つたのが昭和六年三月、それから試運轉をして九月一日開業といふ順序となりました。

此工事の爲に死んだ人九十六人、重傷者六百廿人、輕傷者五千六百八十九人を出してゐる事は滿九ケ年を費したこの隧道工事の困難を物語るもので、將來此線を通る人の忘れてならぬ事の一でありませう。

○

沿線の溫泉は次の通りです。

伊香保溫泉は海拔六百五十米、榛名山の東腹に在ります。鹽類性含鐵炭酸泉で貧血症、胃腸病、婦人病、神經痛、ロイマチス等によいと申します。

澁川から自動車又は電車で行きます。上野、澁川間三等片道一圓八十二錢、澁川、伊香保間バス往復九十錢、貸切片道三圓、宿泊料は一泊二食付二圓半乃至五圓です。

四万溫泉は海拔約七百六十米、無色透明の弱食鹽泉、溪谷の美、交通の便、旅館の設備等のよく揃つた溫泉場で、伊香保と共に上毛溫泉中の自眉です。

澁川からバスで往復二圓八十錢、約二時間かゝります。一泊二圓乃至五圓位。

川原湯は吾妻川の溪谷に臨んだ景勝の地に湧出ます。泉質は無色透明の硫黄泉。

澁川からバス往復二圓八十錢。一泊、二、三圓位。

草津溫泉も矢張り澁川からバスがあります。片道二圓七十錢。

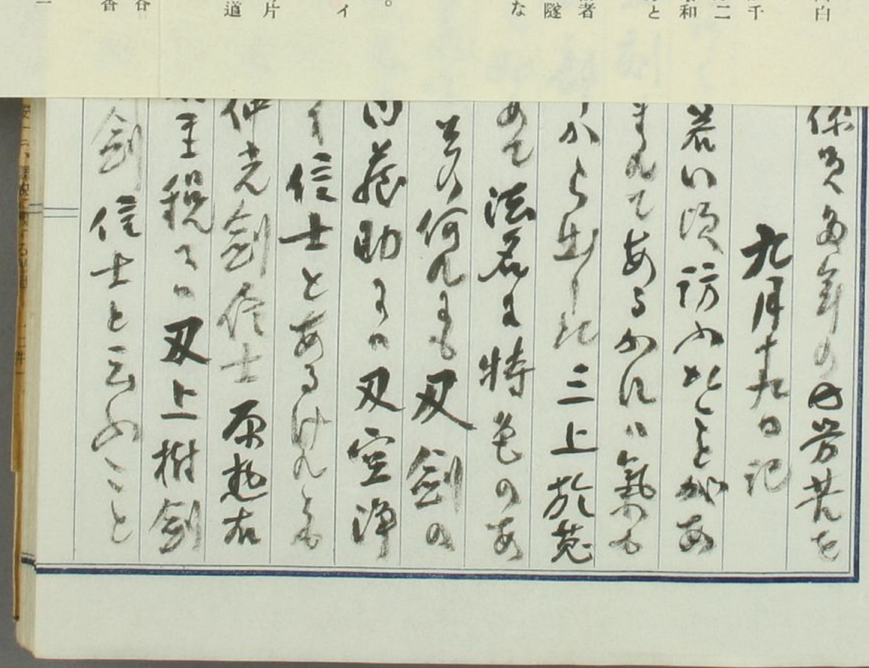
草津は海拔千三百六十余米の高原に湧く硫黄含有酸性明礬泉、旅館の數も數十軒あつて、冬はよいスキー場となる。一泊二圓乃至五圓位。以上が吾妻川入の代表的な溫泉群です。

沼田から入る東入り即ち片品川入にも老神、穴原、白根、丸沼、川場等の溫泉群あります。

後閑から入る西入り即ち赤谷川入にも色々の溫泉があります。途中の茂左工門地藏、鹽原多助の生家と墓等を訪ねてみるのもよいでせう。

湯宿溫泉は鹽類泉で南に赤谷川を控へ三國街道に沿ひ如何にも田舍めいた、のんびりした溫泉場です。一泊一、二圓。

上野、後閑間三等片道二圓十四錢。後閑、湯宿間バス卅五錢。



四万温泉は海拔約七百六十米、無色透明の弱食鹽泉、渓谷の美、交通の便、旅館の設備等のよく揃つた温泉場で、伊香保と共に上毛温泉中の自眉です。

澁川からバスで往復二圓八十錢、約二時間かゝります。一泊二圓乃至五圓位。

川原湯は吾妻川の渓谷に臨んだ景勝の地に湧出ます。泉質は無色透明の硫黄泉。

澁川からバス往復二圓八十錢。一泊、二、三圓位。

草津温泉も矢張り澁川からバスがあります。片道二圓七十錢。

草津は海拔千三百六十余米の高原に湧く硫黄含有酸性明礬泉、旅館の數も數十軒あつて、冬はよいスキー場となる。一泊二圓乃至五圓位。以上が吾妻川入の代表的な温泉群です。

沼田から入る東入り即ち片品川入にも老神、穴原、白根、丸沼、川場等の温泉群あります。

後閑から入る西入り即ち赤谷川入にも色々の温泉があります。途中の茂左工門地蔵、鹽原多助の生家と墓等を訪れてみるのもよいでせう。

湯宿温泉は鹽類泉で南に赤谷川を控へ三國街道に沿ひ如何にも田舍めいた、のんびりした温泉場です。一泊一、二圓。

上野、後閑間三等片道二圓十四錢。後閑、湯宿間バス卅五錢。

笹の湯、**湯島**はバスを相生橋畔ですてゝ入ります。川を下れば笹の湯、川を上れば湯島、何れも一泊一、二圓です。湯島にはよいスキー場があります。

后閑から相生橋迄バス六十錢。バスの経點猿ケ京で乘換へて**法師温泉**、**長寿館**の玄關先迄自動車が入ります。后閑から一圓卅五錢。玲瓏球の樣な單純泉でよい紅葉境です。

上牧驛の下、利根川に臨んで**大室**、**利根**の二温泉旅館があります。

水上驛に近い**小日向**、**湯原**は近來めき〳〵と發展した温泉場で、利根峽谷の紅葉は實に美しいものです。

上野から三等で二圓卅一錢。一泊二、三圓位です。

谷川温泉は水上から徒歩で二粁半程、谷川岳の下の谷に分入ります谷川岳登山口の一です。

湯檜曾からゆく利根の本流藤原の地には**寶川**、**湯小屋**、**湯の花温泉**等があります。健脚の人は紅葉期に是非一訪されるがよいでせう。

湯檜曾は奥上州最奥の温泉郷、湯檜曾川に臨んだ幽境です

上野から三等で二圓卅九錢。一泊一圓半乃至三圓位谷川岳登山のよい根據地です。

湯澤温泉は越後湯澤驛から二粁、丘陵の上にあるので魚野川の平野を俯瞰するに適して居ります。上野から三等で二圓六十六錢。一泊二三圓位です。

栃尾又と**大湯**の温泉場へは小出からバスが通ひます。上野から小出迄三等で三圓九錢。栃尾又迄バスは九十錢です。

○

紅葉郷は赤城山、榛名山、吾妻川の渓谷、四万の谷、草津へゆく道、奥日光の丸沼、菅沼、尾瀬沼附近。

笹の湯、**湯島温泉**を含む赤谷川の渓、**法師温泉**附近。

水上附近では諏訪峽、利根峽、藤原では大倉峽谷、寶川、湯の花兩温泉附近。

湯檜曾温泉附近。

越後へ行つて魚津川の谷、清瀬川の谷、三國峠道、六日町からゆく八ケ峠

○

スキーによいのは越後の湯澤温泉に近い岩原スキー場、布場山スキー場、中里驛前のスロープ、東小千谷に近い稗生スキー場、船岡山スキー場、長岡の悠久山スキー場。

上州で土合スキー場、湯檜曾に近い大穴のゲレンデ、谷川温泉の傍、水上温泉附近、湯島、法師等の温泉場附近、赤城山、榛名山の諸スキー場等。

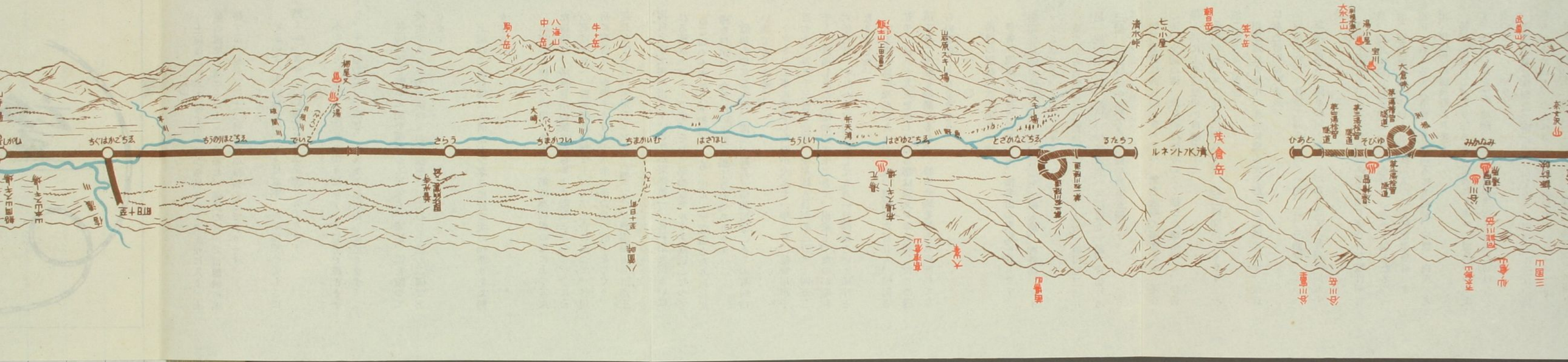
○

最後に**長岡の博覽會**の事を紹介致します。

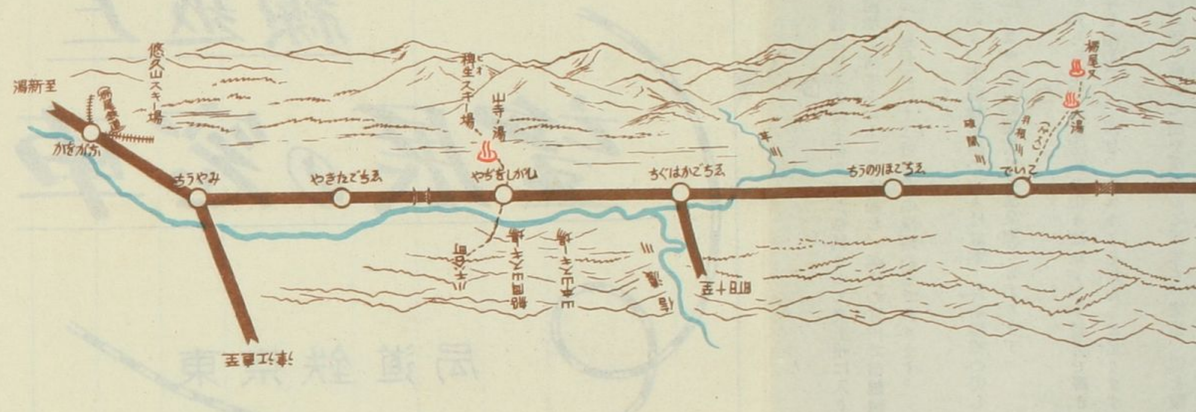
上越線の全通を祝賀する意味で開催されたこの博覽會は五十三万圓の費用を使つたと申します。參加してゐるのは鮮滿、臺灣等の殖民地を初め三府四十一縣の出品があります。會期は九月卅日迄で入場料は大人廿五錢、小兒十五錢です。

上野から長岡は三等で三圓四十四錢、約八時間の汽車の旅です。

至小山
しばへま
(東武線)
(スバ)
しばまんし
(スバ)
きさかた
至上野
至田口
野岩鉄
やじうそまんぐ
らはぎや
はかぶし
ましきし
ともはい
たまぬ
んかご
くもみか
みかんみ
そびゆ
ひあど
清水トンネル
清水峠
七小屋
朝日岳
笠ヶ岳
茂倉岳
大水上山
湯小屋
室川
大倉沢
武尊山
三峰山
日光白根山
赤城山
笠懸
赤城山
榛名山
妙義山
浅間山
水晶山
稲包山
三国山
仙ヶ岳
平標山
谷川岳
オジカ沢
白毛門
笠ヶ岳
朝日岳



陸の山人の状景、雪
中掛負ふ人生活の
状況、漸ゆく振り返
て他の一端を見る穴



際の山々の状景、雪中掛負工夫生活の状況、漸やく振り直して他の一端を記す穴らし光線を見る素びの状景、拙穿活の花々の様式か或い模型或い宮殿びに流水さん与流造勝隈他の宮殿や模型も多く陳列さんあり流石に大工

榛原製

事なりしことと思ひ引り、係る名刹の由来を尚さんの思ひ出さるる。

九月十九日記

○長岳寺義士の墓の表面に若い頃訪ひたことがあるが、四十六人にどんな法名が刻まれてあるかは覚えない。今度出掛ける時は三上花苑氏の案内で「義士」を探ねて法名を特色のあることを知つた。四十六人の義士を何れも双剣の二字が光る字用くてある大石内蔵助の双空浄剣居士、吉田忠左衛門の双仲光剣信士と云ふ様な法名の矢張り吉田忠左衛門は双仲光剣信士、原惣右衛門の双峰毛剣信士、大石主税の双上樹剣信士堀部安兵衛の双雪翠剣信士と云ふこと

くれある。自双しにからこんな家を造人比の外、丈良郎
る切り込人比から造人比の外、双と人刻二口つまで用
てあるのは鉋りる法鄭寧であるやうな思はれる。原
浅草寺の法名へと見ると「法光院殿前小府卿散
吹毛玄利大居士」とあるが吹毛の二字は禄名である
字かもしれんるのが誘名毛を吹いて傷を求めると云
ふ意が連想さん、玄利の二字は一刀を敵る浴せと
と云ふる南る、真蓮さんな寓意があるのかも
知らぬが、めな法名を換人比とのがある
○吾家もたくから一巻の家系が有してみる、天正九年
関市時帯刀信学が泥川たり「は巻、木林寺九、完て巻
尚し、系図の裏に浅田信長の裏書がある。系図の原文

榛原製

は一時大いる流行しにこともあつて、ずんを書つるにもな
すまるから、こんな共数(おも)るとも思つて、ゆし
く取て出しても見ず、先源北郎秩、金が家の書祥
北が再度の市時ことを書き、あるの四表証
を試みに時も、実人と北の系譜を関却を編んるの
つとが、系図弘出して見ると、活和源氏から起つて
鎌倉時代る初めて市時と姓とする石見守義村と云ふ
ものが見くてある、第先代へと見ると足利五郎三位(兵
部少輔従五位下)の子とをつてある。然へ承久三年
後鳥羽院御謀反の時宮方、見宮の七郎軍敗北の後本
四くり取北条めあると共聊和惣無之中津相海然
とも城中が賀あるる配流七郎、家信遠江十郎

家に暫く閑居後年四三の市を住すとあり、共子の義村を就て北条相模守入道節最の寄、任官行脚し節被一右衛門尉に任ず、永正元年廣中山城殺害せ、永正元年文亀元年庚申山城殺氏と有り、これが真性の如きも三口の市を取つ北と云ふことなるべし。共子の義則が市島義狭守としてあつて別に任歴かるべ、共子の義真加市島右京亮と云へる弘元年楠河内判官武成鈴倉出勤し節軍を伯師井千鈴慨備武の時加勢軍功あつと記されてある。共次の市島主馬助義房、八貞和五年四月十四日四条縄手合戦に討死したる共次の市島小大の義久、

榛原製

印年で任歴を欠き、共次市島源左衛門尉家共次市島右衛門尉任業、共次市島十郎義久、任武右衛門尉業の後、足利家に直参と有り、共次市島左京助信光、永正年中上方勝不穏つき、細川城中に籠城守るべき命に依り三回迄を堅固と有り、共次市島右衛門尉信綱天文四年、関川に討死と有り、共次市島大膳亮重信甲州武田信玄に仕へと有り、共次市島伯耆守信政天文年中上杉謙信に討死と有り、共次市島主馬助信房永禄四年九月十の川中島に討死と有り、共次市島八郎信能市島主馬助信照共に左に任歴なく、今般北四一回御手に又信賢先年に被加勤

辺の由二付作々成政吹聚する御家に高出信秋面面他
利あれ由之命を蒙り奉仕廉之とあり、えき掠ると、後
馬羽院の御講及る関係ある柿谷文書に因縁あり
海信信云る仕へてゐるがどんぞまで外事実であろう
か、此等同姓の人々は果して実在の人であつたとしても、
家と関係があるかどうか、丹波の市島と云ふ地名な
どは一切見へない、北條時頼と一度の招を受けしとのこと
出さんとするといふ説もあるが、系譜も他に
相当つり合はせれば、手柄をいうてきこまな
ば、其家の名誉なるならいから、系図屋の常習
手段として板ばりがちいから、えんぎを担造したと
のかも知れぬ。系譜も一巻あるといふが、まだ見

榛原製

ぬをそれとなくが無い。因一のうの八ぬか、その内比較し
て見たいと思ふ。

九月廿一日の記

○濱口前首相が国際連盟脱退報が日出新聞さんとと
ふから散策の序で二三軒の出版屋に立寄り買うんとし
たが、どれも売り切れと断られた、ひとり人気があると思
ふと、やはり丸山内の面山翁の一冊を買ひ求めて
一気に読了した。成るほどあの人の誠意を後世に見ると
あの人をつくりあげる。どこまでも自ら欺かざる人であることも
がりとの一篇も看取される。実は自分は濱口君を深く知
らぬ。大義名分早速敷衍氏が政治比時、濱口君が新聞
垂涎を買つて、義侠の大切なことを主張する席上但
ふ如かりつ。比其海を初めて濱口君を思つたが、実切

天半
朱霞

魚處
水

瓦解
冰消

散花
巖

會
心

自問

松竹
處

放
眼

幻塵

寫心

言中
有響

辛未夏日
石平銷閒

りである。濱口氏は其席で始終沈默で、唯だ用意の手紙の言ふことを任して居られたが、自分の寧ろ其の沈默の態度に敬意を表した。あの甚だ難の日の和平を敬慕し、ためにか、多くの輩が、もとより、暗殺者を憎むと共に濱口首相の傷の輕微ならんことを祈り、そのかゝ入院後も其の經過に頗る注意を拂つて、究から熱心なる人に對するこゝろ、ひとしく、陛下一般の大任を負ふ首相であるからと云ふ理由から、偉大一個人面目如実の人であつたのみならず、自分も或る感を起した。彼と所謂る政黨員の人であつたのみならず、一世を指導する主として其故であつた。政治的手腕を振つ

ては光彩ある偉人であつたとの思ひもするが、政治家の人格の欠けたる今日、手腕ある人格が望ましい。あの人と全國の同情が集まり其死を惜む情(世間)は、偶々なる人格ある政治家の拂底であるかを思はしむる一徵であると、特に全等を感ずるのである。

九月廿一日記

○近頃の學者の研究で監獄内の罪囚は一種の精神病が發見されたことが文藝春秋十月號に珍奇刑務所病と題する辻山義光といふ人の書いたものがある。但今の古代の監獄で、の監獄論を書いた時、罪囚を病患者として論じたが、其の病患者、就ては後に委しく云ふことが出来るであらう。實に帝大に心理學を

学の人び時外山正一教授が世ゝ話を授けて、それと就て取調べた結果を教倫び海道さセたことがある。自分の取り扱った場合は慈い類狂であつた。類狂はいろゝの種類があつて犯罪と交渉のあるものもあるが、犯罪人として論ずべきことは及ばなければならぬが、狂人は病者の種々様々な病名を書かるゝ。精神病者の種々様々な病名などを覚へてゐるうちに、それを解釈することが出来るやうになる。今迄山々伝へられたことと、大抵の罪因は偏執癖である自己の欲を主張して頑迷で自己を杜けるこゝ。平気び霊言を吐く霊言癖もある。自己の行為を熟慮反省を曰へく衝動

複原製

癖、長思の緊張力を欠く軽佻癖、細微なものがひゝゝ大きゝ反癖する元斎癖色態異なる性、酒乱などの変質者、犯罪者、いくらうづつある癖び、罪因の改善を図ることを心掛け居るこゝ。保し精神異常癖は好る微妙なる癖なり、犯罪者は精々狂を装ふものゝ虚偽を言ふものゝ多いから、従等を材料として研究することは容易ひなる。但し精神病の研究もあゝ開けてきたから、犯罪者の諸癖を診断も進んび来たびあらう。自分は此山の書いたものを、軽佻断や〻発見さんに一癖を知ることを得た。それは一種の神経病び、神経に繋がんに続果起る一種の精神病

である、之れを拘禁性精神病と云ふてゐる。他の精神病と異なるのは拘禁を解けば、それと同時に本態をまることである。辻山氏は種々実例を挙げてゐるが、それは略して大体は左の如き症状である

入監後生活の変化と精神的変動とのためにて不眠、眩暈、頭痛、刺戦性疲労感の神経衰弱的症状を呈する。漸次感情の鈍麻、意思の減弱を来し、或人は心氣性の訴をなし、胃腸の神経症といふ障碍を生じ、食思不振、下痢などを起す。又或人はヒステリー性症状を示す。時々ならず感情の興奮があらはれ、突然躁暴となることもある。

沈鬱状態となると自殺を企てる事もある。又ある時は早発性痴呆を思はせる病状を現はし、朦朧状態を示し、無為茫乎となる事もある。昏迷状態を陥ることもある。錯乱状態を呈することもある。

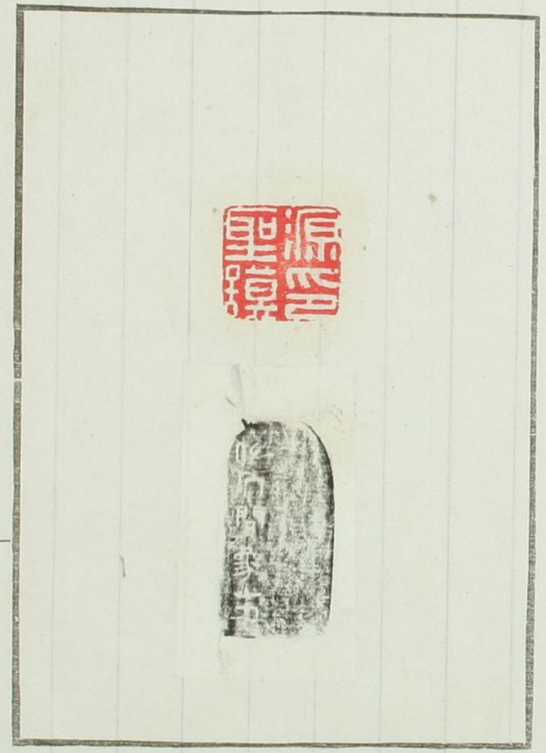
誇大妄想を有することもある。多くは被害妄想、被害、迫害、無罪、歓放といつた事を内容とする妄想を発生して来る。完敗的妄想を有するものもあり、幻聴、幻視も来る。流涎もある。

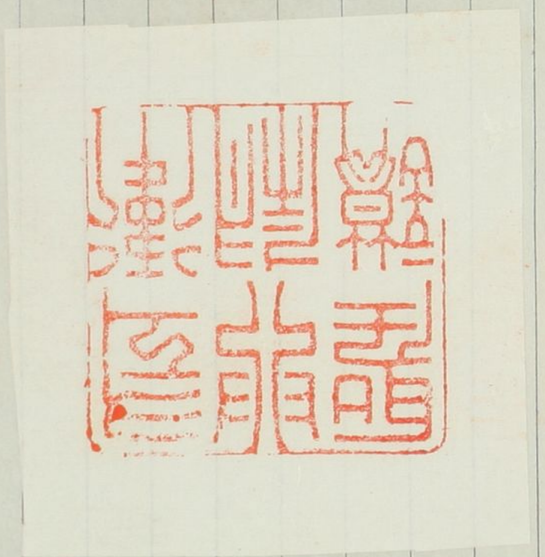
拘禁の症状は説明し拘禁中に限ることい云へ全く類狂状態である。それが永続的類狂であるか否やは、鎖的に考へる。斯の、類狂症を誘発することの得

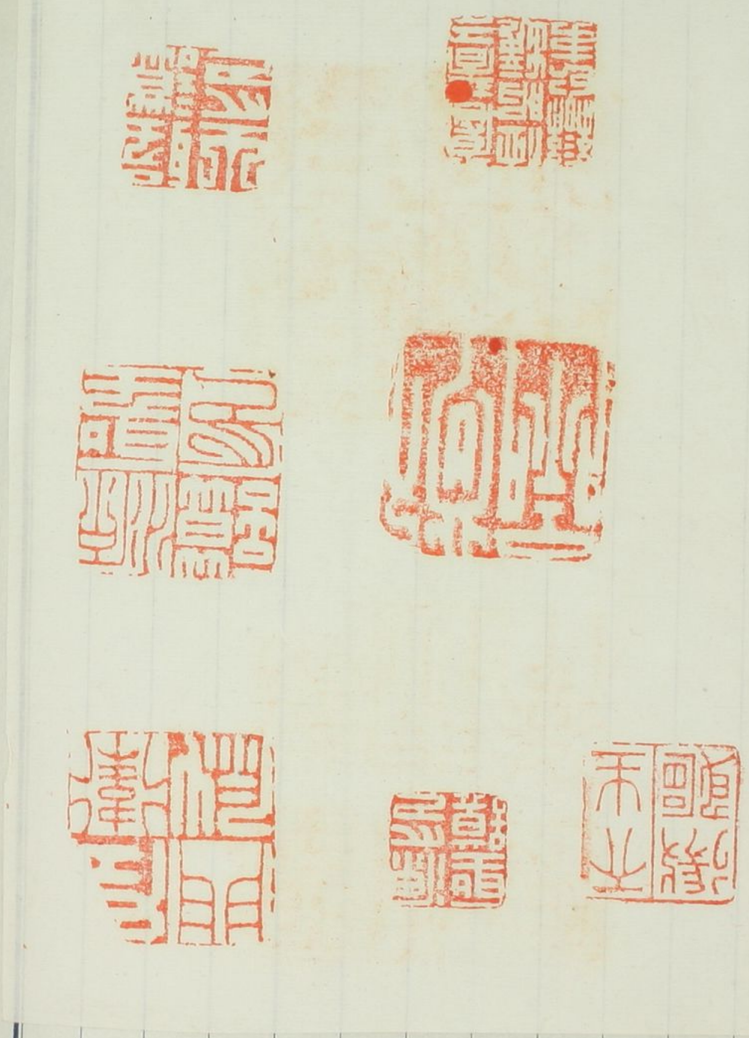
失七一間数であらねばならぬ。罪囚の自業自得と云へばそれまでであるが、刑務者は北海道に対して北海の心得があらねばならぬ。獄醫の北海道を元拠とする使命は充から類性質の充と同じであらねばならぬ。そのあるべきの医を要することとなる。そこで北の病院が若干さんとしのは獨乙のハレル刑務所である。

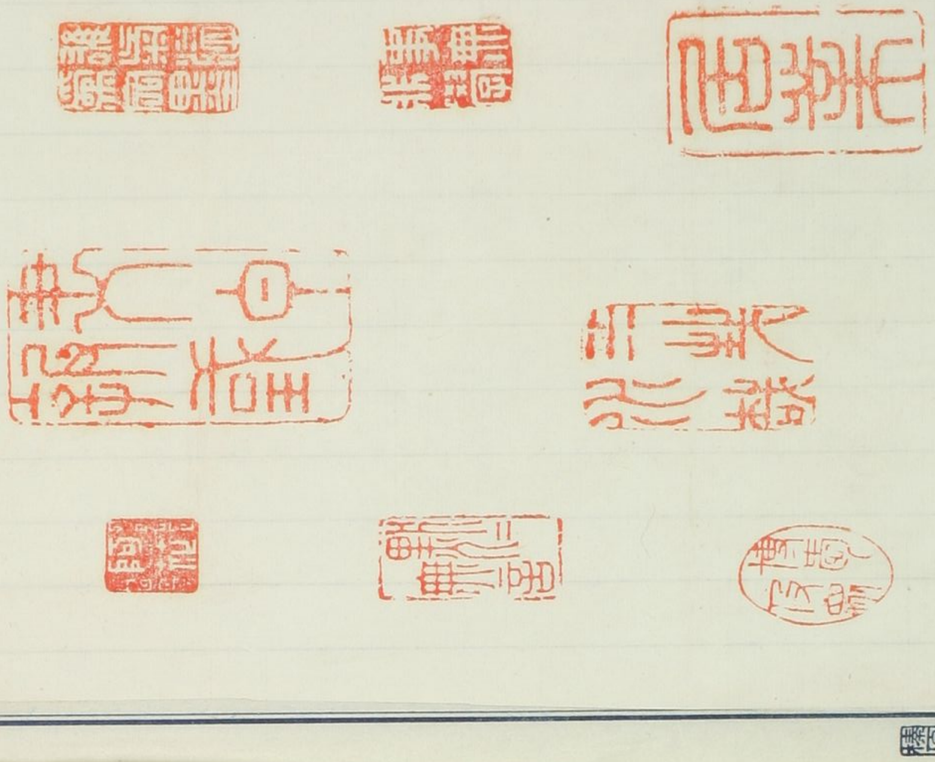
一九二〇年、亮悪囚で充ちた時であるといふ。日本はまだ未だ特にこれを研究する必要を感ずるやうである。

○川路左衛門尉聖謨（敬齋）の遺印は関ヶ原前に郵が録したが今左に印影を収む、住印は象山刻のようである。









以上は福富の一行がアメの如き日本語を連発の模
を見て余の寄稿せしものなり

○昨日午後つつんくに紙屑の書簡を保存せしものの箱を拡げて取り出して試みに検閲を試みたる
弐千通の多きを見て、うんざりする程なるものがあるが、近来の出簡は第一葉の表書いたことが多く、
亦ちつても無くてもよいようなものが多く、やゝ保存するに値するものは一百中に一もないと。
ら或ることの弐十通もある、何れも(略)後日五峰を
どは其の都度に焼捨てゝしまふ。今年は一のみの一百通
迄ゝもある。内容に多くは既に知人となつた人の書簡は棄てるに忍びざるものばかりである。

雨倒を恐んで墓碑の結果約百家ばかりを得たが
一家で弐百通もあることもあるが、まだ調べられない
ものもあるが、家人を裏打をすることがある
ので、見て装潢をさせる子の仕立て保存しない
いと思ふものである。実の多く不用の反故で拵えを
寝るの愚を笑ひとし、他日玉石を保存せば有益な
業なるも、故舊に報じて渇きいやうを慰めるかと
ふ思ひ立つたことがある。尚ほこれを附記を要する
八前年もこれと同じことを企てたことがあつて、用益
書簡と名つけて逆賊に保存してあることが十数
年を経て、見て渇えたるが今日の採取で
ある。

犬養木堂　中村徳五郎　石本曉海
日下部吟野　童附澤　西村文因
山崎覺次郎　富山健　吉田東伍
久米邦武　文學文雄　武富時敏
川上眉山　響庵　任内吉
田岡聖生　服部宇之吉　富士川游
昆田文次郎　服部嘉香　内藤湖南
徳富蘇峰　東宏平　陵口五峰
京都松洲　溶田和民　田中光顯
桂湖村　游谷　和田英
中川毅　服部嘉香　井上陵
大口鯛二　栗原廣太　五十嵐力

榛原製

町田忠治　建部豚五郎　磐井新九郎
和田不二男　中野半次郎　田中穂積
杉本長一　小河滋次郎　畑山丈
巽孝之　田中福城　田岡正之
内藤久寛　嶺田通次郎　徒城嘉明
牧野通次郎　永井荷風　今泉定介
岡野敬次郎　杉山三郎　小野秀次郎
関根正直　久保美雪岳　石黒忠惠
中井敬所　今泉雄作　角田勤一郎
田中義成　坂本三郎　前島密
古川清次郎　近藤瓶城　杉浦重剛
徳川頼倫　平田禄衛　角田朱冷

朝河貫一　上野理一　寺崎廣業
屋崎紅葉　大久保湘南　和田垣謙三
鳩山和夫　鳥文次郎　梅溪次郎
井上圓了　高津鍬三郎　入澤達吉
三田村鳶魚　木崎好尚　塩澤昌貞
吉田早苗　萩原朔太郎　渡邊修三郎
鈴木長蔵　石井勇　小野義真
石山基吉　野口英世　菊池晚香
大槻如電　渡邊霞亭　中島九萬吉
河部炎炎子　歌麿三　小栗虎雄
益富鳳花　吉村長八郎　新村出
内田魯庵　吉穂義彦　梅浦精一

天野為之　上遠野富之助　穂積陳重
三浦作太郎　福井彦次郎　大野孝七郎
菊池晋二　屋崎行雄　石渡敏一
田中一貞　大隈信常　渡村龍太
有賀長雄　吉田秋濤　小崎愛

標原製

の分画の満蒙事業は日支百年を取つて不幸にも出来なかつたのである。それは中村大尉を虐殺したことが前提であつたのである。支那兵は張作霖を破壊した。支那側から事変を起したことは毫末疑がない。日本が満蒙の権益を衛る為め、恢域の安寧を云つたのは日露戦争の新人を保護する為めであつた。日本は当初から戦争の範囲を拡大せざらんと力めたが、本国の支那の地所撃滅するの外、日本も敷ひまんこ実抗せざるべからざるに至つて、終に朝鮮の守備兵をも動かすに至つた。全体支那側の満蒙の兵力は二十四万二箇師団であるのに、日本は僅かに一箇二千位の少数で、保護的で許さんとする兵数は云はるべき。日本の兵は強よりも十よく百に当るのである

榛原製

が有無衆寡敵し難い形勢である。隠合若義もしくは
が、兎に角彼を制し得たのは吾将士の功と云はねばならぬ。彼れ支那兵は邦人の侮る所となれば、どこまも
暴挙を為す、美と雖も義を忘れ、虐を恣にし、
擴大することを厭憲し、虐を恣にし、邦人に引
揚を命じ、これに依つて日本の真意のある所は徳
然なるものがある。然るに彼等は事実を歪曲し、聯合
訴へ、事実を顛倒して列強をして日本を抑へしめんと
策す、彼等の云ふ事端を醸して外国の干渉を招
致せんとするの意思がある。乃ち計画的の方策であ
ることは言ふまでもない。
若し聯合とならば無つたら恐らく満蒙事変

標原制

は益々擴大して四交断絶と云ふ迄人心が知れる
日本は飽まで地方一部分の事変として、彼れ
の仕掛けるまゝに我剛毅域は敢て擴大
得ぬ。実は今回の事変は聯合の立入るべきのこと
である。況し世界の平和保持の為に主つてみる聯合は
我剛毅を擴大せめやう数言先をなすことは
無いとしても、干渉がましいことは出ずに形式に於て
しては出ずるに。飽まで地方解決は飽て片
がつくやうな事件である。これが本意である。聯合
とすれば公平無私の意思決定のやうに見えるが内実は列強
が利害関係で自我本位で乱れ合ひまする所から、聯合
は決して公平無私のものとは云ふまい。現今回の事変

支那側にあることは明かである。聯盟はそうばかり考へておらぬやうである。見境満蒙の吾が権益の内に焼死を抱くことゝ、日本の軍閥は一種の病忘心を抱き、事業に乗じ火事泥棒ひも働きはせぬかと考へてゐるかゝ。事実日本が公爵宣言の筆を出しても、兎や角ケチをつける気味がある。支那はどうかと言へば、秩序のない四ひあり、白洲文化の四である。時に脱線することのあるのもこれを得ない。と寛恕する気味がある。これに乗じて支那の外交官は巧みな逆宣伝をやる。そしてその宣伝はめるも巧みのものがあるから列強を動かすから、支那ばかり相手として困る四の無い。今後の事ともも聯盟が深く立入ることゝ、支那が日本をどこまでも利に導かるゝ限りは、今の事件は絶まれ相手国の義憤に乗じ、聯盟は家自路止ることなく、日本は聯盟の干渉にかゝらぬやう今後注意しなければならぬ。軍部も勝敗は兵家の常をやらぬことを立帰るのの政府の大切な任務である

忍苦數十年の我權益
支那官民侵害の跡
朝鮮人への壓迫百八十五件

今回の事變の遠因が滿洲における我が正當なる權益に對する支那官民の多年にわたる組織的侵害によることはさきに本紙に掲載した「滿洲問題早わかり」の中にも述べたところでありますが、この問題こそ今度の事件解決にあたり――國際聯盟にせよ、何れの機關にせよ――日本側の主張點となるのでありますから、左にその實例を摘記します。

日本は日露戰爭の結果、ポーツマス條約と、これを確認した日清滿洲善後協約及びその付屬協約（明治三十八年十二月二十二日調印）の締結によつて滿鐵、關東州租借地においてロシアの有つてゐた一切の權益を繼承し、その後、明治四十二年九月四日調印の間島協約、滿洲五案件に關する協約、大正四年五月二十五日締結の南滿洲及び東部內蒙古に關する條約（二十一ヶ條條約）その他大連灣關稅協定及び內水航路に關する協定（明治四十年五月二十日調印）電信協約（明治四十年五月二十日調印）[illegible]

[illegible]るわが特殊權益の根底をなすものでその主要なるものは左の通りです。

一、關東州租借權
二、南滿洲鐵道經營權
三、その他の鐵道の受託經營權及び合弁敷設權
四、滿蒙內地の裁判管かつ權（領事裁判權）
五、鐵山採掘權並に鐵山擅採又は處分に關する先讓權
六、森林採伐合弁權並に森林の擅保又は處分に關する先讓權
七、銀行券を發行し及び流通せしむるの權
八、郵便局設置權
九、電信電話設置權
一〇、土地商租權、旅行居住及び營業權並に農事經營權
一一、警察法令及び課稅に關する關與權
一二、鐵道守備兵駐屯權

この他日本居留地設置權ほか二三をあげるとが出來ますが、右はいづれも御記日支兩國間に締結せられた條約により明白と規定せられてゐるにも拘らず、支那官憲並に民衆はあらゆる機會にこれをじうりんし、最近數年間に兩國間の紛擾となつてゐるもの實に三百余件にのぼる有樣です、以下、こられ諸權益がいかに支那官民によつて侵害せられてゐるか、その事例を摘記して見ます。

一、旅大回收問題

關東州租借權はポーツマス條約により、露國より滿國の承認を經てわが國に移轉讓渡せられたものであり、その期限は滿洲條約の定むるところでは、一八九八年三月二十七日より起算して向ふ二十五ヶ年とし、右期限滿了後は兩國政府[illegible]

[illegible]ものとしてあつた。そこで、わが國は大正四年の二十一ヶ條約によつて、この期限を九十九ヶ年に延長することの承認を得、從つてその滿了期は一九九七年三月二十七日となり、今後尚六十六年を余す譯であるが支那側は二十一ヶ條條約を無効呼ばはりをなしてしばしば旅大回收の運動を起してゐる。

二、滿鐵經營權侵害

滿鐵經營上における我特殊權利である、滿鐵を我が國にて經營せる期間同鐵道付近にこれと併行する幹線又は同鐵道の利益を侵害すべき支線を支那政府をして敷設せしめざるの權利。これは打通鐵道及び溥濟鐵道の强行敷設によつて既にじうりんせられたのみか、目下東北交通委員會の計畫せる東、西二大幹線、ならびに鴨河を結ぶ幹線は明かにこの既得權を侵害するものである。

三、鐵道問題を中心としての支那側の不法

右のほか支那側の不法行爲としては、昭和三年滿蒙海鐵道における滿鐵の擔保行爲、鐵道の車台、人事件があり、わが委託經營下の吉長鐵道では昨年末新任同長郵政局が日本側代表を無視して專斷的に同鐵道職員八割の更迭を行つたことがあるほか、わが建設工事請負鐵道である洮昂、吉敦兩線においてはいづれも現物引渡しを完了し營業に開始して居るにも拘らず、請負金はおろか、その金利の支拂にも應じないのみか、當然の約束通り滿鐵契約締結にも耳をかさない始末、更に昭和三年五月十七日敷設權の正式認可を受けたる洮昂線の敷設に對しても、[illegible]

[illegible]す、民國十六年十一月には奉天實業廳より奉天省內の各種商業は支那官民の合同となすべき組織の布告をなし、日本人との合弁經營を妨止すると共に、從來よりの經營のものにはいづれも嚴重妨害の魔手をのべ、利權回收に努めてをり、大正四年の日支條約で日本側の採掘權を認められた奉天省の牛心台田什付溝、杉松岡、鞍嶺、暖池塘、鞍山站一帶、吉林省の甑窰、夾皮溝等各地の鐵山はいまだに日本人に許可せられてゐない。更に、昨年十二月綿布の取締業法の實施によつて、邦人の綿布に於て有する權利には一層の制限が加へられる事になる。[illegible]

オイルシェール工業に對する支那側の壓迫、本溪湖煤鑛公司、鞍山振興公司に對する支那側の壓迫はいよ／＼出でて、いよ／＼辛らつなるものがある。

六、森林事業に對する壓迫

日本人が森林事業に從事することは條約上認められた權利であるが、支那側は「森林法」において外國人に森林の擅下を禁止し、各種の法令は森林伐採權を外國人に讓渡することも、これを擔保として賠償することも禁じてゐる。そのために吉林において多額の資本を投下森林經營に着手した富士製紙、王子製紙、三井、大倉等の企業家は支那官憲の壓迫に會ひ遂に事業を中止するのやむなきに至つたが、また東拓田資のうち東海林實業公司の如き日支合弁經營も更に[illegible]

[illegible]過大の敷金の賦課等で經營困難に陥つてゐる。

七、邦人商業に對する妨害

イ、商標權侵害　支那官商は本邦有名商品の模造、僞造をなし本邦品の消費に再大なる影響を與へてゐる。現に「ツバメ」印齒磨粉、「グリーン」齒磨粉等の模造、僞造品市場に散見してゐる。

ロ、ハルビンにおける金票流通禁止　民國十五年十月哈大洋の墨落を禁止するため東省特別區行政長官は金票の流通を禁止したため北滿における日本商人は多大の打撃を受けた事實がある。

ハ、官銀號の特產買占　東三省官銀號は奉天省を壓殺してしばしば特產買占を行ひ外支人民間の直接交易の自由を妨害してゐる。

二、邦人工業に對する壓迫

【滿洲紡織會社に對する壓迫】滿洲紡織會社（資本は大正十四年北京政府より模製洋式貨物并法の特典を與へられて設立せられたものであるが、奉天官憲は支那側紡績たる奉天紡紗廠の製品を保護するため右北京政府の許可證を中途で握りつぶして、微稅を行ひ同紡織事業の發展を妨害してゐる

【南滿製糖會社に對する壓迫】支那官憲は農民を壓迫して製糖原料の栽培を妨止し原料の供給不能に陥らしめ南滿製糖會社（奉天）の事業の根底を覆へすに至つた

八、商租權妨害問題

日本人は大正四年締結の日支條約によつて、長期條件で更新し得べき土地租借權を與へられ、各種の商工業上の建物を建設し營業を經營するを得ることになつてゐるのであるが、支那側は右條約締結と同時に交涉委員をもつて際弁國城條例なる別に特別法規を造りて人民に對し死罪をもつて威かくし、土地商租を極力妨止する態度に出でたが、なほ地方官憲の商租禁止を目的とする訓令、懲令に至つては攻擊にいとまない有樣で、ために支那人は土地商租を背ぜず、僞、危險を冒してこれをなすものあるときは、官憲に依て直に投獄の憂き目を見せるはもち論商租權者たる日本人も支那官憲の壓迫にあつて土地利用の目的を達し得ない實情にある。なほこのほか支那官憲は（イ）土地擔保の借款禁止（ロ）國有荒地の撫下又は開墾の制限及び禁止（ハ）森林伐採權の禁止、（ニ）居住權の制限及び禁止等土地商租權と關係ある方面をも嚴重に取締つてをり、日本人の發展を甚だしく妨害してゐるが、朝鮮人に對する壓迫はまことに辛らつを極め昭和二年中に[illegible]

[illegible]東、鐵嶺、營口の各領事館管內において支那官憲の朝鮮人壓迫事件は左表に見る如く實に百八十五件にも上つてゐる

イ、居住權に關する壓迫　九四件
ロ、小作權に關する壓迫　一七件
ハ、けう害證書に關する壓迫　七件
ホ、歸化權及び敗風取締に關する壓迫　四二件
ヘ、教育權に關する壓迫　六件
ト、無法なる拘禁又は罰金を强せし件　三件
チ、不當徵收　二件
リ、主義宣傳　一件
合計　一八五件

中外に宣明せる帝國の聲明書

既得の權益擁護は政府當然の職責！

滿洲に領土的野心なし

滿洲事變に對する帝國政府の聲明書並に國際聯盟理事會の善後處置に關する芳澤大使に指示すべき訓令案は廿四日の閣議で決定、午後九時四十五分左の如く公表した

一、帝國政府は常に日華兩國の親交を篤くし共存共榮の實を擧ぐることを一定の方針とし終始これが實現を期して苦心努力し來れり

不幸にして過去數年間中國官民の言動はしば〳〵我國民的感情を刺激するものあり、殊に我國のもつとも緊密なる利害關係を有する**滿蒙地方において最近不快なる事件頻發し**遂に我友好公正なる政策も中國側より同一の精神を以て酬ゆる所とならざるが如き印象を我國民一般の心裏に與へ、物情騷然たるに當り**偶々九月十八日夜半奉天付近において中國軍隊の一部は南滿洲鐵道の線路を破壞し、我守備隊を襲撃しこれと衝突するに至れり**

二、當時滿鐵沿線を守備せる日本軍の兵力は總計僅かに一萬四百を過ぎざりしに反し、その四邊には二十二萬の中國軍隊あり、**事態にはかに急迫を告げ**これと共に同地方に居住する百萬の帝國臣民も又重大なる不安の狀に陷りたるに顧み、**我軍隊は機先を制して危險の原因をせん除**するの必要を認め、この目的のためじん速に行動を開始して抵抗を排除し付近に駐屯する中國軍隊の武裝を解き地方治安の維持については中國の自治機關を督勵してその任に當らしめたり

三、我軍隊は前記の目的を遂行するや概ね鐵道付屬地內に蹈遲集結し、且下付屬地外に在りては警戒のため**奉天城內及び吉林に若干の部隊並に數個の地點に少數の兵員を配置すといへども、何れも軍事占領に非ず**、あるひは帝國官憲が當口稅關又は鹽務署を占領せりといひ、あるひは四平街、鄭家屯間又は奉天新民屯間の中國鐵道を管理せりといふが如き**流說は全然誤傳に止まり、長春以北又は間島に我軍隊の出動せりといふもまた事實無根なり**

四、帝國政府は九月十九日**緊急閣議を開きてこの上事態を擴大せしめざることに極力努むるの方針を決し**、陸軍大臣よりこれを滿洲駐屯軍司令官に訓令せり九月二十一日長春より吉林に一部隊出動せるもこれ同地方の軍事占領を行はんがために非ずして滿鐵に對する側面よりの脅威を除かんとせるに外ならず、從てこの目的を達するに至らば我出動部隊は直に長春に歸還するはずなり、尙九月二十一日に至り滿鐵沿線の不安に鑑み朝鮮駐屯軍より混成一旅團兵員四千を新に滿洲駐屯軍司令官のき下に派せしめたるも、**滿洲駐屯軍の總兵數は尙[illegible]の限內に止まり固より對外關係における事態を擴大せるものといふべからず**

五、帝國政府が滿洲において**何等の領土的欲望を有せざるは**こゝに反覆る說するの要なし、**我が期待する所はひつきよう帝國臣民が安んじて各般の平和的事業に從事し**その資本又は勞力をもつて地方の開發に參加するの**機會を得せしめむとするに在り**、自國並に自國臣民の**正當にけう有する權利利益を擁護するは政府當然の職責**にして、滿鐵に對する危害を排除せんとするもまたこの趣旨に外ならず、帝國政府は固より日華親隣の誼を重んずるにおいて既定の方針をかく守するものなるが故に、今次の不しやう事をして國交の破壞に至らしめず、更に進んで**禍根を將來に斷つべき建設的方策**を講ぜんがため誠意中國政府と協力するの覺悟を有す、これによりて兩國間現下の難局を打開し禍を轉じて福と成すことを得は帝國政府のきん幸これに如かざるなり

○昨年華族令設に関する文部省の時間研究会と
ならず外務にて取りかゝる事西洋各国公使
邦人と世界の任務の主体の一端と少く、原に日本
の商業会議所の如きもの無き為の
聯合会の如きものを設けること、此の人々に於て世界の不
景気の原因を研究され、其等が為に不況の原因
あるべし、之れ銀の過剰にあるべし。之が銀貨を
とるべし。
○此の日清戦の災をもたらしたるもの。此
の聯合会に於て印度の銀貨四千万ルピー
入の過剰があると云ふ。英や仏の銀貨を
つぶして銀塊とした方が賢い。印度の銀貨四億

あるのを出さぬ主義制と改めんとする計画なり。之が
為めの銀塊を売り出す必要がある、こんが本銀の
供給を過剰とする。
こん等の為めに為さんとする。
しと停止するのこと。
銀の為に下るのこと、英国のシリングに勝手なる
デーの紙つのるつたのも
ぐも銀のひゝが如き事の禍をなすこと裏
過し日本もひとく其の影響を受けるが、銀の性質
地は メキシコを主とする。こんも銀のあいのこと大打撃を
受けもある。こんも不景気を拡張する原因の一ひあつも

海軍の発達があるけれども、海軍の衝に当る国は関係国の恐れを買わぬから出り手がない。日本も支那に擬せられが真の海兵と断つべきものである。不景気の他の原因ともいうべきは、寧ろ不景気を誘出し得ない一因は、労働賃銀や俸給の下らないことである。支那は日本ばかりでなく、世界中一般に内閣人員を減ずる。英国のごときは最も著しく、終に内閣を改造し、英国一海内閣を組織して十四億の赤字を埋めるにせよ大ストを任意にかくれば、即ちメートコミッテーの案を採用したのであるが、官吏の俸給を減じないの海軍失業救済費に大なる斧鉞を加くれる。英国の失業者は今日三百万

人を抱えてあるといわれが、労働党内閣は失業救済費を支給率を漸次増して最初の数倍に上ったのである。日法数は如何なる赤字が埋まるのであるか。支を引下げ労働党は大なるストをかくれば為め英国の大なる反動を来したが、保守党内閣となって、高き世界の住宅を支配する所にいたる。支那国の一つの世界敵なる際、自国内の財産を買くの不安を感じ、英国の行き詰りがしかるに人心は即ち自国の買く方が富ます有利であると信じて資本が引出すのである。これ等も非常の打撃をうけてある。英国の赤字

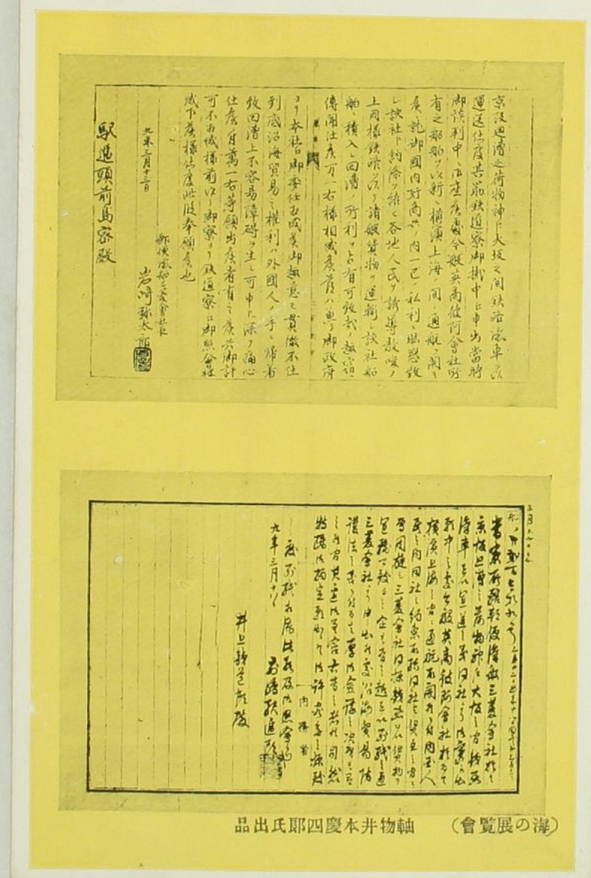
埋めの方策い後急ニ為すあるも、今直ちに行ふのと、徐々
に行ふのとあり、惜税をちすることも勿論方策の一つで
ある。もう一ツ世界の賀威ともいふべき、ロシヤ
のダンピング（不当廉売）である。ロシヤは何もかも国有
を名とした共産主義で元り上げ、不南蔵主義とやつて
ゐるが、今任意さんもゐる五ヶ年計業が効を奏し、
その結果をダンピングで世界に売り出すもつたら、
こんな恐合危みることもあらう等々が原の話る事
熟びあつた。

九月廿六日記

○九月二十六日　朝来の小雨霊況となつて漸やく甚
しく結湯度を霧のさんとする地方を聊の雑
ことを得た、あで拝生とんてゐる折柄、偶と城後

榛原製

、朝今後数日間の度接に往つて貰つた早大
教授上井
磯吉が訪
出かけて
やつて来
たから
郵便を
きつて待
ち
時分を
参した。
道具屋が
駐をやつて来た、何か面白があるかと聚



（海の展覧會）　軸物井本慶四郎氏出品

沿革誌いろいろ出版した。其内に西尾の舎利塔
二基、也と金魔殿も通例のものと形式を異にし
てゐるので之を買ひ元の記。前の足利川路聖謨
の遺印（其数十五印影の前に收む）を百円に
するから買へぬ、うと勧められたが、まづい方のから
と云て未だ購ふを決しない。福島甲子三氏の
久遠寺二冊を宮せられた。えゝ長篇落合の
経歴、徳久山と題する詩歌を多く集めた
ものとか、其他諸家さんも出して貰
はゝ恐くこんが書一冊もあらう。福島と云ふ男
も云ふ感心なあれば落合の経歴
をザット読む。浴牧を見た。序で郷土史と郵

榛原製

で昨夜間に合ひ一書を脱す。美ハ壬申北海土
寇顛末」と云ふ三十頁の活版本で、明治十年月日
帯刀海道操作等が愚民を煽動して
迫り来る暴者を鎮めたこと、南時の
ある其の始末を家老の
想い涙としかしあるを、こんハ明治廿八年
の稿給かあり、暴徒者を
「あるい」北海ハ毎の後ハ
二三日を要す、之も文明の
「」を翻訳し、略々清書した
史家でグリフエルモ、フエルロの原著を
此、あり、溶田博士が著顕
と概要を知り多の

解説をかくてみる。そうしたら早大の京があって駅の
名著と思ふ、西洋新渡戸上るノートを取つ
て置き紙いと考へてみる。墨の跡白く貼附した巻
尾の端書に明治九年PO今社が三菱会社の
郵船と競争を試みんとする時岩崎社長が野通
駅前島に進言した書面とそえこ新する野通政の
之面とが面うを存してもあるが、文言を見ると海外
の初期時代のさまが偲ばるしかるに、すべてもおしと
ここに収めて置く。なお保こ舊暦八月五夜をする
内人例のごとく月に対して稲の供物を献ずる月の花
りを雨忘きうに降り雷雷轟く、再見春平の為
儀申遂の電報来る、えんを一日の記とする

○今の日本橋の駅数菓中松月堂主宰の回
想を読んで、回らず米人モールスの日本をのの
評本二冊を送ることを約束のあることを熟がつきし、取り
敢ず特の為めに伝ゆくり、既に遂げたる。北方の際の
今の資金で科学知識普及今出版部から照和
四年十月に出版された改ニ三版を出したるのに、自
分いろいろまで知らうとする、巻頭初めてモールスの
生涯の縁故の深い○貴方の日宮石川千代松博士の
長い序がある、博士の長男欣一が学ってモールスの先生
の宅に寄宿したることを深かく記人に由て詳さんとみる
と、二巻で千頁以上のものであるが、先生が日本に来て
住れること四年間、毎日くこれを日記に書

いたるまで、あの先生（達）者を待ちて人であつたかと、
の頁にスケッチの無いものは、見て感ずる興味
を深くするこの先生の日記、未だ嘗て明治の初年
であつたから、日本特有の事柄がまざまざとつくりそ
きしれあつたのだ、見が新来の来人さへ驚嘆珍
く見くたくしく、あの鋭利な観察力を以て、平著
が通例を喜を留めず、極る事柄を一つも漏さず
除く書き、且つえん、就て所感が好くてある、自分
も大なる生物学の数を学ばれた人であるから、後人で
あると毎頁毎頁を感ずる、あの先生は驚る日本事
最頁で、まつて所感と以て日本のことを解し本
国をも日本をよく観察した人の故、三著を教さえ後

更に動三著を教さえ後、あの人は行くの研
究の為め北は北海道、南は九州にまで出掛
る度の風俗習慣を書きとめるのだから、実に
大著述である、よくも気根よく日々書き続けたる
と吾等を感ずせしめる

九月廿七日記

モールスの序の中にもおもしろいことが書かれてゐる。
文を左に抄録する
日記帳三千五百頁を占めるこの材料をどう
いう方法で世に表はさうかといふことは、去年考へ
ついた方法で世に表はすことが出来ようと、全く変
はり、ハウキリーとアム、スタージス、ビゲロウ（私は
人ドクタア、ウヰリアム、スタージス、ビゲロウ
日氏と一緒に三度目の日本訪問をすると）からの

手紙がきっかけとなり、この日記は出版の考えを決定づけることになった。私は大得意でビゲロー氏に手紙を出し、軟体動物並に脚足類を研究するいくたの研究を片づける為め、セーラムのピーボディー博物館及びボストンの美術館から長い休暇を貰つたことをひらせた。美に浸するドクター、ビゲローの返事は次の通りである

「君の手紙が気に入らぬことが少つとも一つある。外ひも持つてゐる人は他にゐるのに、君ほど美と就て語る資格を貴やさる。誰ぞ出来るやうな下等動物の研究は、君がいまゐる大切な時を徒らに

榛原製

ゐることゝ思ふ。君は正直な人、日本人の方が数段も高尚な有機体だと思ふのに、脚足類を棄てゝ蟹ばかり講へたり、脚足類は大丈夫だ、いつぺん誰かゞ世話をするまきまつてゐる。君と僕とが四十年前親しく知つてゐた日本の有機体は、消滅してゐるタイプで、その多くは既に完全に地球の表面から姿を消し、そして我々の年齢の人間ことは文字通り、かゝる有機体の生存を目撃したる最後の人であることを忘れるなかつて知つた日本人は死なべしムナイッ（今は化石としてのみ残つてゐる頭足

類の一種）のやうに、ゐるとうてるふいそ
ビゲロウの説は面白い。同じ日本人がモールス流来
の時の日本人とは全然異つてゐるとも云くるべどれ、西洋
化してゐるのに、既に化石さうされ共苦しの状態が拙さんもあ
るのは、
さからの事に、

○モールス先生は書生さんいたく愛げ犯のよい人であつたが
けれ、其の日記を読んでみても頗る懐かし味を感ずる。此の
此の二冊の本を拵い手ずから拵へ、アチラコチラを
読んで見ると、既から先生を拵まるやうな氣持がして、知
らず識らずの間に二三頁を読破した。自分いえんを
読んで其が稀なの日記の体であることを感じた。日本

榛原製

の画家さも絵日記と云ふものがある。美い絵を本体とし
僅ゝ文字を副へるものであるが、先生のは美しい達つて
日時のものを見ると書いて美しい解説がある、
そして其の観察は極めて的確であるのに驚くべき推
測をも外国さ拵ぶと拵ぶ珍くく感ずることを日記な
ども書くが、画を添て描すことい西家のみさん無い観
察も洗しも肉匹ひさる。霸旅地さで著さ家しも時
間がるのから無理もるのかい。先生はいろく研究さ忙が
い其間さ暇くて見たことを活さすものをみる、絵も日誌を
書く時記憶から呼び起しておいろ事さ紀方幕すもの
でハるく。見られ、見れば其陰さ著言するのである、路上でも
人の家さても、宛から今日コダックを携帯して、それ殺が

る写すと同じく何物を造がさうい子供が術数ひ為戯をしておると立留まつて其人を写す、又為おかあると人種人の中でそれを描すと云ふ指物でやるから、どの絵も写実である。写してみると形珍らしげな人が立どまるのでそれの巻物を始けられたもとく書き取んとつとつと断かりめある間も少かくもある住ひが其等でも活立流る出来てある。あの人の絵るものの業が達者であるとかから、極めて短時分と写し取つたる拙(ヘタ)さい。大体の人の偶然目新しいとある無を感じも書くのだから、あの先生い偶然の目新を写しとるとも少かうあるが、写すことを目的として出うけ●に場合が少うくさいやう自から云ふてある。日本の事物の真味を持つ外人

榛原製

は敢て少うくさいやうに、先生のやうに面白がつれよは他にあるまい。あの人の日記はスケッチの日記である。日々の事●が文学的に委しく書かれるのであらうの絵を引離して日本の風俗を関する部分の絵を出版しれもも思ふが、非常的事物かりうとそれぐ日々の日誌に何頁も続つたる相違さい。あの為記の人は四年の長き間よくも絵が続いたものと感ぜらるも得ない。外人の日記に就ての観察記は少くもあるが往々見いしたるの無く、解説の観察的程度とは長く及ぶ先生のごとく広汎に渡る論つたものは無い。うつかデオハルンの如きは日本を紹介し其の名の人であるが、絵は詩的と文章と拙いとあり、先生とは行き方が異つてある。

保しの本の事柄を興味を持つの比點は略ぼ同一であると思ふ。
殊に地域を異にする日本の柄を見てゐるから、何を就き
日情が違ふ。殊に偏見と云ひたいから先づ日本人が書いて
ゐると同じやうな書かれてゐるから特に安心を得ておる
モールス先生の最初日本に来たのは新潟の為め
で、江の島に暫を据へて漁民と生活を共にされ、それから
大学の聘を受け一旦帰国して再び来朝したのである。
あの頃の大の事件は大久保利通公の暗殺があつて
モールス先生日記に「皆の驚きの余り大学
で初めてダーウヰンの進化論を講じた時の感も陳
べてゐるが、西洋ぢい家族的制度時代のひは生
を説き得るのか、日本ぢい講演が甚だ楽であり、

標原製

聴者の熱心なることは理解のあるのは人を満足せむ
しめる。始めて地震に遭つた時の感想を述べてゐる
が、先生の略る孫ふくに思はんと、恐怖どころか愉
快であつたと云つてゐる。先生は日本人をとりわけ強い婦人の
やうな正直さがあつたと云ひ、その美が弱小とあることの
強さとを云つて西洋婦人やお清婦人を引いて
みるが、支那や露西亜と戦つて、勝利を得たこと
を本国に知つてはんと感じたであらうか
モールス先生は日本を去つて帰れば直ちに想見
するあの人達の事柄の動柄の研究とすることが主で始終
採集とつめたが、日本へ来ると間もなく東京の汽車
中大森貝塚を見て、これが研究科目の

一をかくした。又あの先生は油絵をもつてもきられ
ゑを研究し且つ採集し自身も西洋画を
るまひをもつたるゑ等の為に適合致りそして
を訪ねられ、別る京骨董屋を訪ねも採集もして
物論をつまるまでも後方の海濱もやつた。此の日記の
ゐは旅行淡々ちうくうへ。あの人を日本を画きもの
八幡宮前のが無つてカ有ちなれ画ゐる。房総岩
画の旅行ゐは亡友田原栄が日仏を家に通海
をやつたことが書かれて田原の名が数々出てゐる田
原の生涯を考へて見やりたかつた。先生がある時
市中を歩いて砂絵を書くゐる[illegible]を見た記
うちうゑうスケッチも沢つてゐるが、モール大先生

榛原製

が五色のチョークで生枝の絵を書くのが完
から砂絵を作ると同様ひあることを思ひ別るも、此の
記事ゐは特ゐ興味を感じ[illegible]。先生は砂絵をそして
俺ゐ[illegible]下手だと思つたゐ[illegible]いとそろれ走像
を地セさるを得ゐへ。
先生が甲山の別宅を探ゐ[illegible]旅行した記がある。その
時は根岸武香の家に泊りて歓待を受けもゐる。根岸
は考古趣味を持つた豪家で、モールスの訪問をも
何れも大人物が到ゐる時時ゐ[illegible]ゐを認めも興
へたことゐ信つても悪像もゐる。根岸の家は豪
農的生活の模様が委しく書めてゐるが面白く
八十ゐ[illegible]武香の母堂が先生と話つて楽しいいろ

の質問を故つことが皆助主てゐると記し、孫娘二人が傷られ国三郎で風を送つてゐる姿絵をも流石ちらと書かんとする。亦九州のある貝塚を探つた時るでい、洞穴を私が満ちて居つて、そんへ何人も入ることを肯人にるそうとのお、已もそれ先生ハ自から入つて百足の群を発ハれたことを志料を得ようとの書かんとする考古的先生の海参と抜味が茶を出して茶を出して抜味がありたいとの文に茶を出して抜味微細のに、まだ満さぬこと、くてある、外人の事に成るこのやうな変しい茶分汁の恐らくあるまい。先生の日本に来た頃ハ馬関砲撃の事件がまだ忘れらるの頃ハ、外人ハ誰でも馬関を入ることを嫌ひと、先生ハ海路九州に寄り神戸に寄り金沢に拘数ヶ月間是非寄りたいとあつて、上陸して市中を視察を見ると。出発する外人の数ハ又盛かあるらしく、花実を外くることハ出来ないが、誰れも知手をさんすまかつた。お見せさく傷悪を数ヶ所あるいしてあると書き、どこを撮つても不衛状を感じたことが無つたが北海道だけを除けばと記してゐる

グラント将軍が日本を来た時ヒールス先生も日本にゐた。将軍と謁(面会)する今さら、先生ハ出席を躊躇した。他の来人に勧めんとヤット出て来ると

旧幕の高級官吏ニドル先生に感服し、官位不二残し
て置いた九冊の絵を進ぜつれて将軍の風貌を
描せしむるの動かれた。実に彩多が将軍を目あ
りさまを書いたのを読んで又感と絶いたのが
実際の人を見ると全く異ったので驚いて異数
の念を生ずるを動かれたことを自白したのである。
モールス先生の探検旅行を多くの場合ビゲロが同伴
してゐる共に道を風通りをやることを絶念が無つた
どんな因縁からか岩国の大守（吉井橋の殿）を招う
みて刀剣や漆器を拝見したことが記されてあるが
その時ビゲロは同伴してゐる。種々フエノロサと
旅行先を落合ったこともある。フエノロサは有賀

榛原製

長崎から高知へ行ったもある。名古屋でニ
人落合つて思ひ〳〵に寺画や骨董を漁つたこともあ
るへてゐる。権左といふ人がいつもモールスの骨董
漁りの案内をしたる北男がよかつたものであつたか
ある時廃物の器をモールスに掘ませて、モールス
の丈の高くなつたことを看破されて詰い論文をか
えた、その日記中に数の多いのを人で大限度いある人は発
モールス先生は解る数の多いの人で大限度いある人は発
達とすることの吉）位だと云ひ位である、大学の教授とする唐
書もあるので別る度数感を以て迎へられらしい。先
生が危険を感じた場合のも行るもちろんことがいろ
く書かれてゐる。一二を云ふと、江の島でゐた頃ホワケウト

て百円の金を入れて暗夜島中をさまよう歩きし此時ひも此
一生の危険か無つたとうたてゐる。ある時人力車に乗つて
テスリも無い狭い橋の中央に三人の酔漢に出遇つた時
ハ三人の悪意かあんバ車の人とも共に水中に投やく陸上さ
へるのだが、酔漢の車を避けれのに何等も無つたと云へ
九州の旅と旅費と金時計とハ十円の貨幣を托し
此所、右原でい墓も無い孟子芽を載せて、先生の
病室の床の間に置きし、まで大丈夫と云ふれのきい
先生も心えうく思つたが旅行から戻つて見ると、そつく
り丈僅床の間にあつたのだ。高恩と感じたとある。先
生が日本人を正直であると云ふ。そして礼儀に富んでゐる
と常に言ひたのも偽れでない。

榛原製

此の日記の今から四十弐年前の記事である。支那とも
戦ひも故西亜との戦ひも先生は本国に居て
ゐる。先生ハ日清の末と感慨を深し、エンサイクロペ
デヤ云ふる日本人ハ徳川氏三百年の太平に慣れ淫蕩
の風が盛んであるから、国民の惰眠懶惰なる
あるのを悲き、見れの甚に誤つて観察ひあること
を書き、自分の日記ハ四十年前見れ偽らざる観察
である決して日本に侵すのでハない。今日の日本の発
達を見れハ自分の観察に誤つて居らぬで
あらうと云つ此やうに言いてゐる　九月廿九日記

追記　大体日記ハ才三者に興味の無いことが積出す
ることい、見ず多の事も概略大要を記し多

く記臆を森するのが常であるのに、この日誌は
趣味的に編制されたる日時は略略してあるけれ
ども記事は極めて周到で記臆の森しかるべ
ときことは実に無いのである。その頁を読んで
も面白く人を飽かしめるものである。
○前に印譜まで掲げた川路聖謨の遺印は終れ
余の手に帰した人の私印は其人の位牌のやうなも
である。故に他人の私印を不持することは
は無意味のやうもあるが、おらを故人の記念物とし
ていとしんでも意味の深いものである。故人の著書を
どい度く流布する性質のものだが、私印は其家
も他人のものだ。絶対唯一である。故人を尊敬を持

横原製

ためこの私印は時流に供する
けれども、誠の罪を仕打である。自分は故人の位牌を
も奔しいまだと、永い写故人の私印を集めて院
ニ百餘枚を迎んでゐる。自分が崇拝の念を以つて
どの人の印を第一番に自分は異敬の念を以つて愛梅
してゐる。今日手元入れた川路聖謨の私印は
心同じ意味で所有者の代償を掃あることを辞せず
雖ども、元来聖謨は自分が異敬する人
であるからの事だ。聖謨は実に幕末の傑士である。
徳川氏の四去路の悲境に陥ちて終に倒壊した
幕府の禄を食んだのは新くあらざるべからざるの
であるが、聖謨の如く壮烈の死を遂げたものは無い。

聖漢は学識ある政治家で、幕府の能吏の標本とも許さるべき人物である。あの人の家格が低かったから、卑官で終ったけれども、実に閣老たるべきものであった資質をもつておる人物である。北の十六顆の印は家光の若人印と一の光彩を添くるものである、中と一顆は人間象山の刻した印もあるが、これらは聖漢を偲ぶ紀念物であると共に象山を偲ぶ一の材料ともなる、尤も珍重すべきものである

九月廿九日記

榛原製

榛原製

以下全て

白紙